メソアメリカ南東部太平洋側の素面の祭壇石彫

伊　藤　伸　幸

1．はじめに

古典期に盛行する石碑と祭壇の組み合わせは、いつ始まったのであろうか。現在までの調査では、グァテマラ高地のエル・ナランホ遺跡が最も古く、先古典期中期とされる素面の石碑・祭壇である（Arroyo, 2010; Sharer and Traxler, 2016）。

最初のメソアメリカ文明であるメキシコ湾岸のオルメカ文明でみると、先古典期前期のサン・ロレンソ遺跡において、石碑や祭壇はみられる（図１）。しかし、祭壇と石碑の組み合わせはない（Sharer and Traxler, 2016）。また、その後メキシコ湾岸で先古典期中期に栄えたラ・ベンタ遺跡にも明確な石碑と祭壇の組み合わせはみられない。一方、先古典期後期の７バクトゥンの日付を持つトレス・サポテス遺跡Ｃ石碑は、Ｃ建造物群のC1建造物の南端で、円形素面祭壇と共に出土している。石碑は７バクトゥンの日付が彫られた面の反対側、様式化された動物の浮彫りのある面の前に位置している。この祭壇は大体円形で、縁の部分はあまり整形されていない（Stirling, 1939, 1940）。オルメカ文化で石彫をつくり始めたが、石碑と祭壇の組み合わせはメキシコ湾岸では先古典期後期からである。また、素面祭壇については、明らかに祭壇と確認できるものは少ない。メキシコ湾岸では先古典期中期頃から素面祭壇を使っていたと考えられるが、その詳細については検討する必要がある。

一方、メソアメリカ南東部太平洋側では、多くの素面祭壇や素面石碑が出土している。2012年から継続して調査をしているエルサルバドルのチャルチュアパ遺跡でも、石碑と祭壇の組み合わせがみられる（図２）。しかし、祭壇石１基は単独で出土している。この祭壇石を考慮すると、どのような形態の石、どのような出土状況ならば祭壇石と確定できるのかということが問題となる。

以下では、最初にチャルチュアパ遺跡で出土している祭壇石と考えられる事例を検討する。次に、メソアメリカでも多くの素面記念物が出土している南東部太平洋側地方を対象として、素面祭壇が出土している遺跡での出土状況を集成し、その特徴を明らかにする。最後に、チャルチュアパ遺跡出土素面祭壇から読み取れる歴史的な意味を考察する。

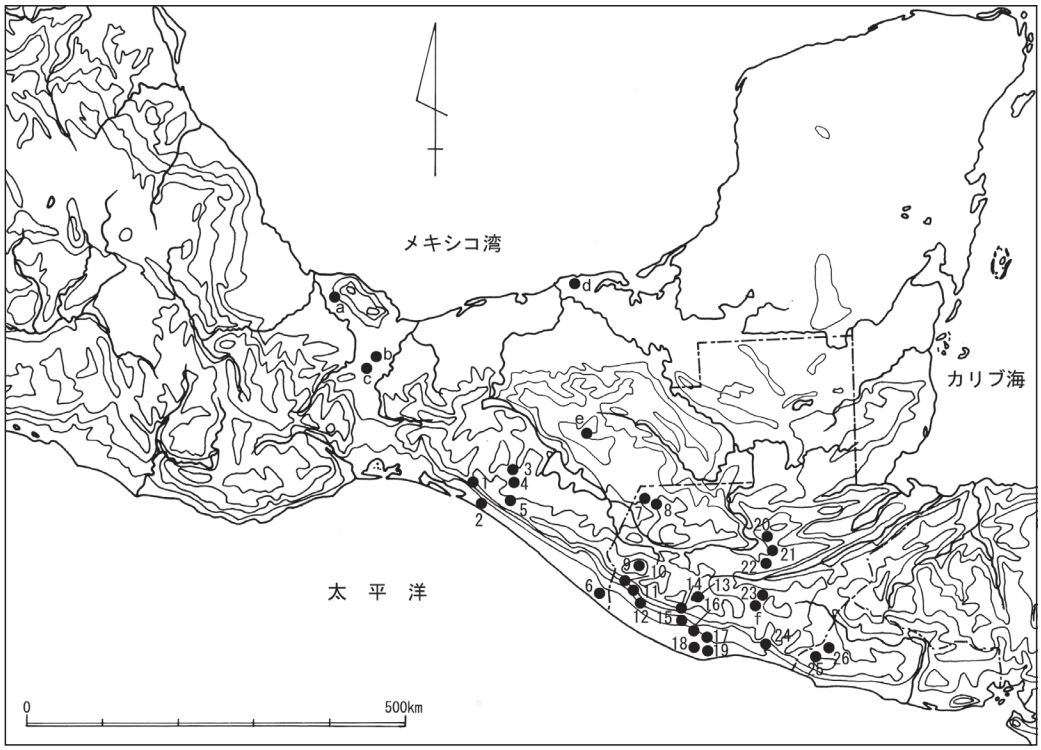


図１　素面祭壇石彫が出土した遺跡

メソアメリカ南東部太平洋側：
１．イグレシア・ビエハ、２．ツツクリ、３．ベラクルスⅡ、４．アレマニア、５．サンタ・イサベルⅡ、６．イサパ、７．ケン・サント、８．チャクラ、９．タフムルコ、10．ラス・コンチタス、11．エル・オリンポ、12．タカリク・アバフ、13．サマバフ、14．チョコラ、15．サン・ベルナルディノ、16．パロ・ゴルド、17．ビルバオ、18．ラ・モレナ、19．モンテ・アルト、20．エル・ホコテ、21．タンポマ、22．エル・ポルトン、23．エル・ナランホ、24．ウフシュテ、25．アタコ、26．チャルチュアパ
その他：
a. トレス・サポテス、b. サン・ロレンソ、c. ロマ・デル・サポテ、d. ラ・ベンタ、e. トニナ、f. カミナルフユ

２．チャルチュアパ遺跡出土素面祭壇石

（１）エル・トラピチェ地区

ａ．２号記念物

シャラーの調査で、E3–1建造物南側のTR10トレンチでイロパンゴ火山灰（TBJ）層下から２号記念物が出土している（図２、３、４a）。法量は、24×75×100cmである。殆ど自然面を残している平石である。微かに搗打し整形した跡があるが、磨かれてはいない。端部はまるくなっている。一つの端は壊れている。報告者は先古典期後期の素面石碑としている（Sharer, 1978）が、平たい楕円形であることから祭壇の可能性がある。一方、２号記念物よりも北、

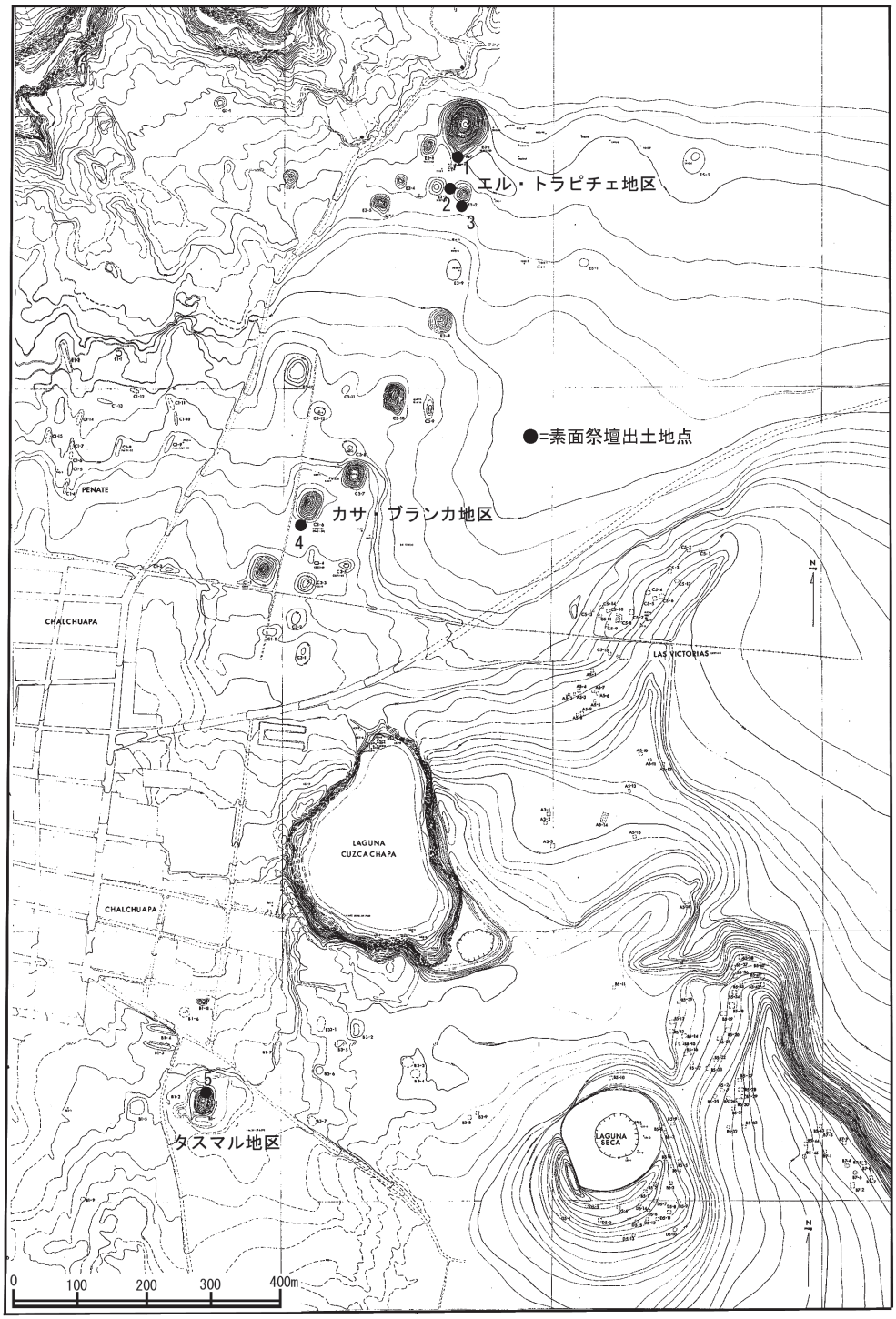


図２　チャルチュアパ遺跡素面祭壇出土位置図（Sharer, 1978に加筆・修正）

E3–1建造物の階段部分に素面石碑（４号記念物）がある。４号記念物と２号記念物は近くにあり対を成し、石碑と祭壇の組み合わせと考えられる。

ｂ．1–5トレンチ第１西拡張区出土祭壇

名古屋大学によるE3–1建造物南側1–5トレンチ第１西拡張区の発掘で出土した（Ito, ed., 2014）。この建造物のほぼ基線上に位置し、E3–2建造物とE3–3建造物の間の床面上から出土した（図３、４b）。平面形は方形で、法量は37×58×68cmである（写真１a）。先古典期後期に属している。

ｃ．8–1トレンチ第１西拡張区

E3–2建造物南側に設けた8–1トレンチ第１西拡張区から祭壇２基と石碑１基が出土した（図

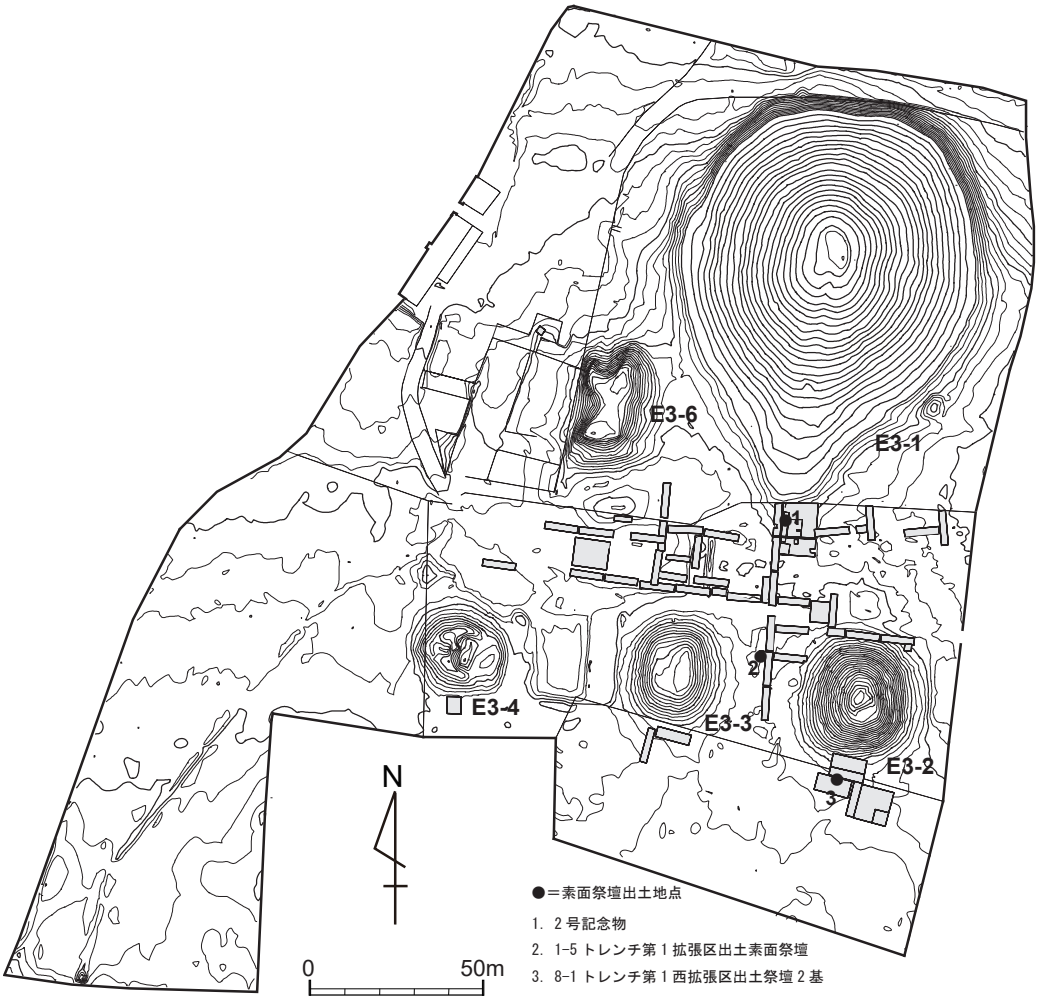


図３　エル・トラピチェ地区発掘区と素面祭壇

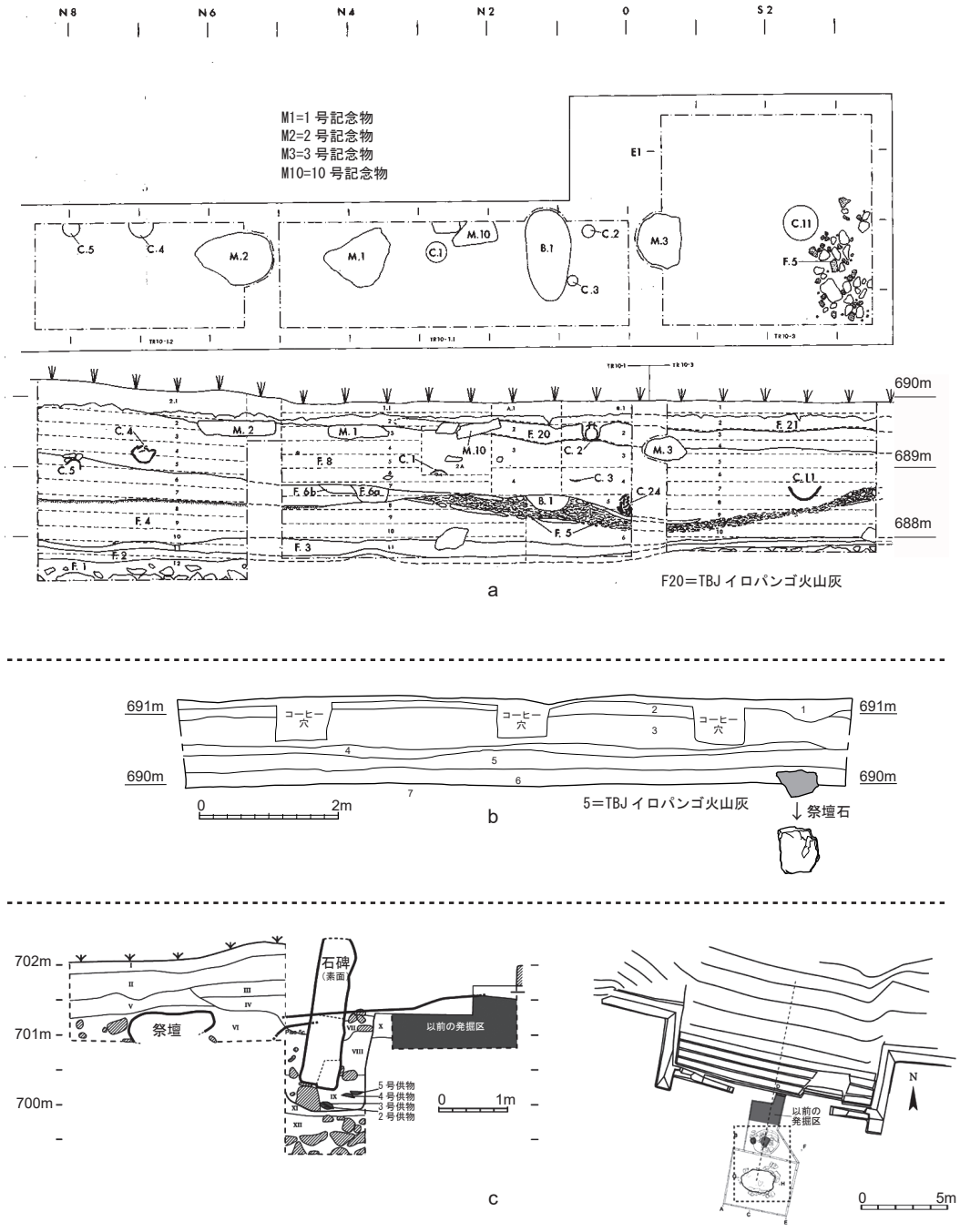


図4　エル・トラピチェ地区及びカサ・ブランカ地区出土素面祭壇

a. エル・トラピチェ地区10トレンチ出土 2 号記念物（Sharer, 1978, fig. 8に加筆・修正）、
b. エル・トラピチェ地区1–5トレンチ第 1 西拡張区出土素面祭壇（Ito, ed., 2014, fig. 17c, 22a に加筆修正）、
c. カサ・ブランカ地区素面の石碑と祭壇（Ichikawa, et al., 2009, fig. 4, 5を改変）

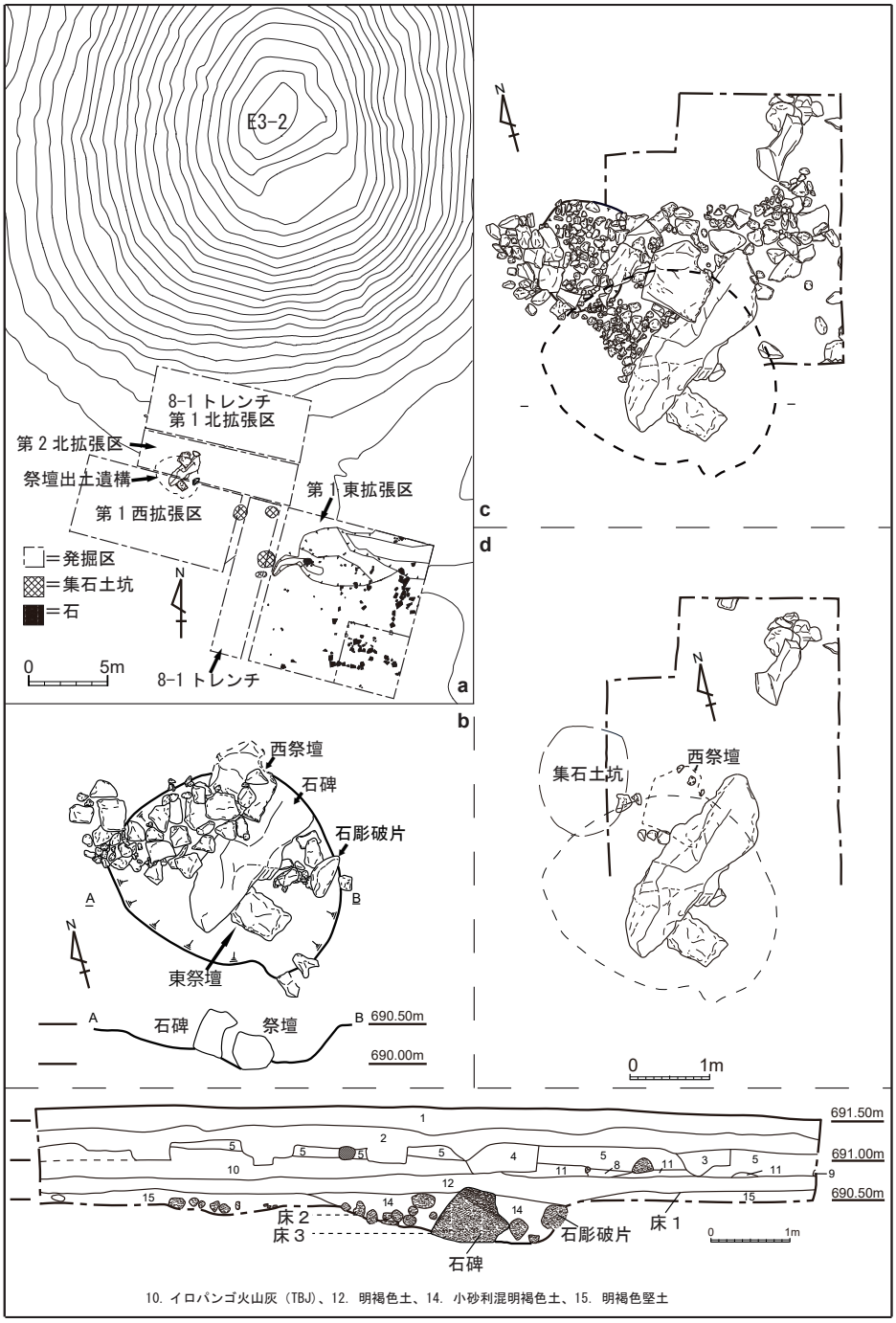


図 5　E3–2建造物南側素面祭壇 2 基出土状況図

a. 8–1トレンチと拡張区、b. 東西祭壇出土状況（床 1 ）、c. 素面石碑・祭壇と集石遺構（床 2 ）、d. 素面石碑と東祭壇（床 3 ）（Ito, ed., 2021, 31, 32, 33a に加筆・修正）

３、５、写真２、Ito, ed., 2021）。イロパンゴ火山灰（TBJ）層よりも下、石が詰められた土坑で上記石彫３基が出土した。この遺構の発掘状況を考慮すると、まず小礫を含む土の床面（床３）に素面石碑を南西―北東方向に横たえた。そして、石碑南東端に接して祭壇（東祭壇）を配置している（図５d、写真２a, b）。その後床面（床２）を新たにつくるために、この石碑と祭壇を小礫や土で埋めた。その後、石碑と祭壇石を掘り返して、穴をつくった。その穴に、自然石を満たし、その上に平らな面を下にして祭壇石（西祭壇）を配置し、逆さにした土器数点と共に埋めた（図５c、写真２a, b, c, e）。埋めた後に再び床面（床１）をつくった。その後に、祭壇石と石碑の一部を再び掘り返し、そこに石と様式化されたジャガー頭部石彫の破片を入れて埋めた（図５b）。東祭壇は、粗く方形に整形されており、上部は平らにされている。法量は50×55×80cm である。西祭壇は、不定形の平石で、下の面は平らであるが、もう一つの面は不規則な自然面を残している（写真２b, c）。法量は40×84×90cm である。

（２）カサ・ブランカ地区

５号建造物（C3–6）南側にある階段前から、素面石碑とともに出土した（Ichikawa, 2007; Ichikawa, et al., 2009）。時期は先古典期後期と報告される。平面形は不規則な楕円形を成し、側面はほぼ垂直である。上面中央にややへこんだ部分がある。祭壇下と周辺には石が置かれていた（図２、４c）。法量は50×180×120cm である。

（３）タスマル地区

B1–1基壇にある1a 建造物東壁に接して出土している（図２）。また、B1–1建造物の最後の建造物によっておおわれている（Carnegie Institute of Washington, 1929）。平面形は方形である。しかし、その法量は報告されていない。

３．メソアメリカ南東部太平洋側で出土した素面祭壇

（１）イグレシア・ビエハ

素面祭壇が４基確認される（図６）。２、３、４号祭壇は、それぞれ関連する素面石碑がある（Ferdon, 1953）。

２号祭壇は、舗装された道の前にあり、C–12建造物の東側壁近く、対となる４号石碑（素面）からみると舗装道側に位置している（図６a）。素面の円盤状で、97×98cm の大きさである。高さは不明であるが、図から約25cm と推定される。

３号祭壇は、D–12建造物の東背面近くに立つ６号石碑（素面）の東側に置かれていた（図６b）。素面で、円盤状で側面は上から下に斜めになっており、石のブロック（12×30.5×30.5cm）４個の上に乗っている。法量は、52×143×165cm である。

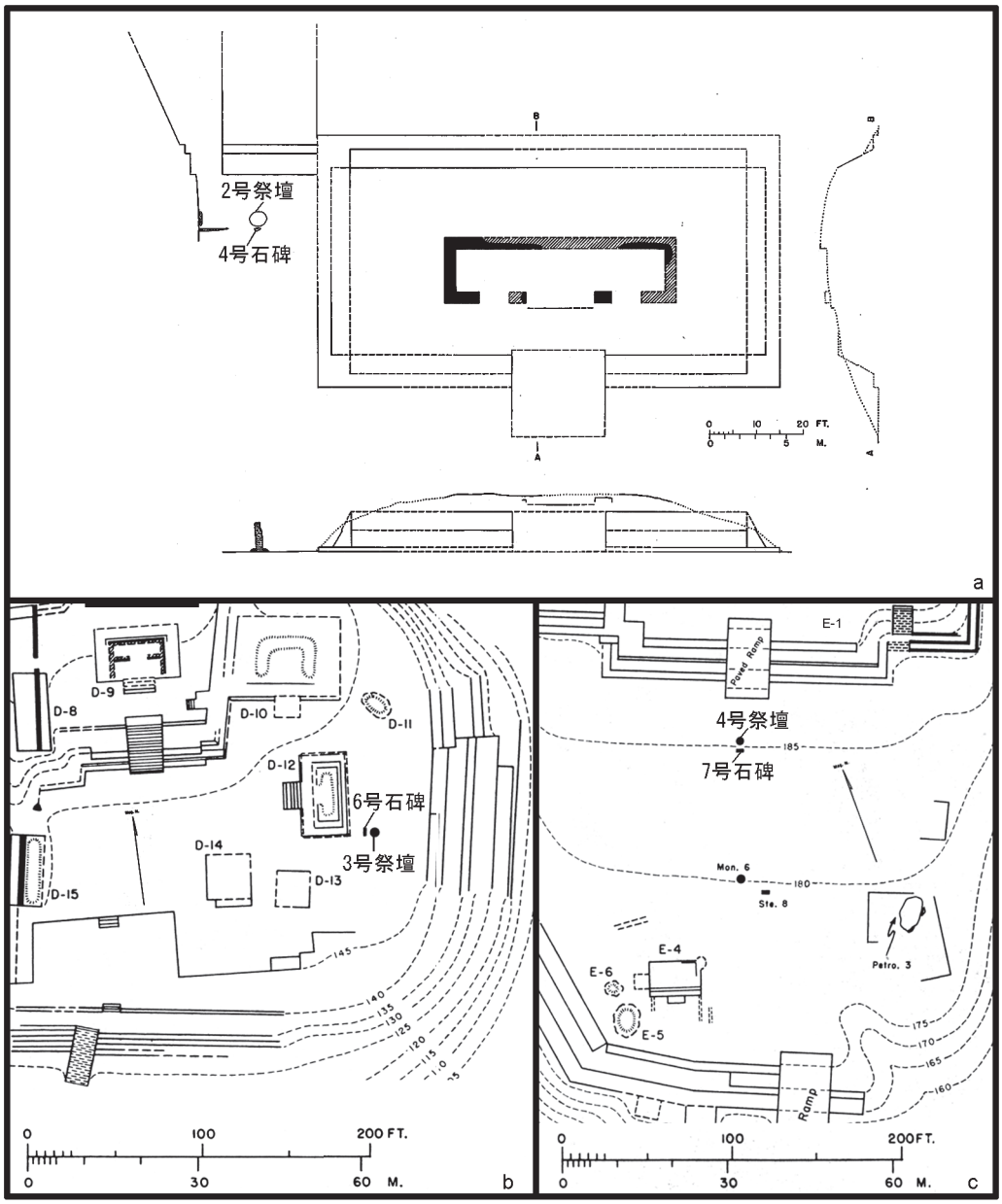


図６ イグレシア・ビエハ遺跡出土素面祭壇

a. ２号祭壇、b. ３号祭壇、c. ４号祭壇（a, b, c: Ferdon, 1953, fig. 15, Map 4, 5に加筆・修正）

４号祭壇は、E–1建造物南正面にある斜道の少し南に置かれていた（図６c）。この祭壇の南には７号石碑（素面）があった。素面方形で、52×43×21cm の大きさである。

また、最近の調査で、B–2建造物の上部神殿から方形素面祭壇が出土した。祭壇は球形の石

４個が脚となって、上部の素面祭壇を支えている。法量は、115×60cm である。また、遺跡の年代は、建築様式などから、古典期後期～後古典期としている（Kaneko, 2006、金子氏ご教示による）。

（2）ツツクリ遺跡

４号建造物の北西隅から不定形の祭壇が出土した。たて穴式石室の北西端、３、４号記念物の間に置かれていた（図７）。時期は、先古典期中期（ツサンテコ期：紀元前550～300年）である（McDonald, 1983）。高さは不明であるが、67×112cm の大きさである。

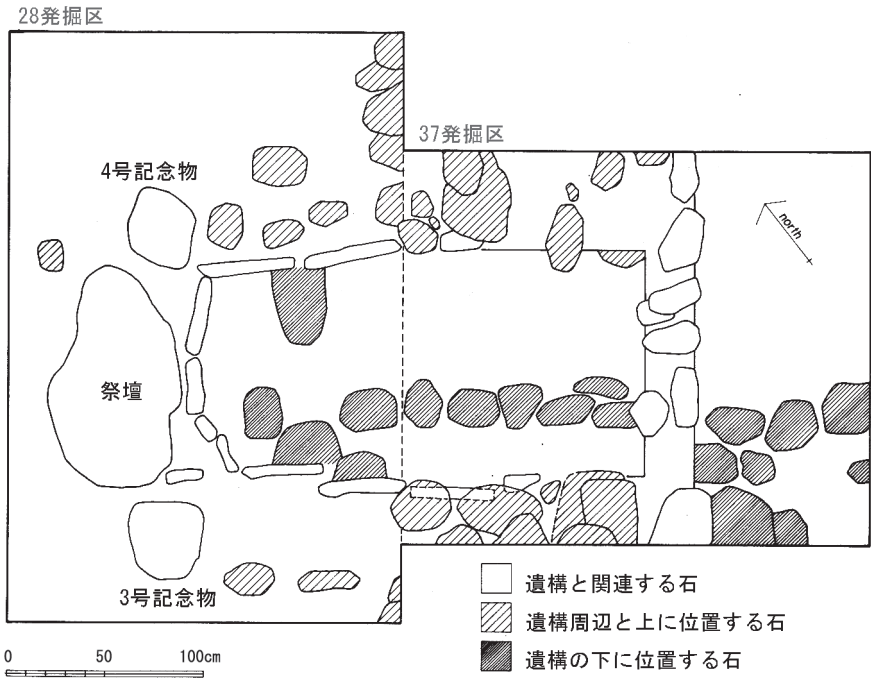


図７　ツツクリ遺跡出土素面祭壇（McDonald, 1983, fig. 16に加筆修正）

（3）ベラクルスⅡ遺跡

中心となるピラミッド正面の階段の手すり状部分下端にそれぞれ円形祭壇があった。法量は不明である。遺跡にみられる土器は、先古典期後期（フランセサ期）から後古典期（ルイス期）であった（Navarrete, 1960）。

（4）アレマニア遺跡

建造物の頂部もしくは周辺から出土したとされる。円形の粗い石の素面祭壇である。遺物は古典期後期（マラビジャ期）から植民地期までとされる（Navarrete, 1960）。法量は不明である。

（5）サンタ・イサベルII遺跡

丘の頂部には数基の基壇がある。基壇の上で素面の円形祭壇と石碑がみつかっている。出土土器は古典期後期に属する（Navarrete, 1960）。

（6）イサパ遺跡

78基の素面祭壇が出土している。また、イサパでは90％の祭壇が素面であり、30％が平らな板状の石を粗く円盤形にされている（Norman, 1976; Lowe, et al., 1982）。素面祭壇の平面形は、円形が多く、28基ある。方形は10基、楕円形は6基、三角形は4基である。不定形は26基ある。また、円形の祭壇で、22、23、26号記念物は円形のテーブル状祭壇である。イス若しくは玉座の可能性があるとされる。また、32号記念物は、同形の石彫であるが、上部に凹みを持つため、今回は扱わない。球形石彫を載せている円筒形石彫が3基ある。これも素面祭壇と考えられる。12号記念物は上面に少しの凹みと溝があるが、素面祭壇と考えられる。多くの石が支えていた13号記念物は、三角形状の閃緑岩である。報告者は石碑の破片としているが、出土状況から祭壇と考えられる。大半の素面祭壇は石碑の前に置かれるか、広場に置かれているが、単独で祭壇が置かれる場合もある。元々あった石碑が原位置より動かされた可能性を指摘している。また、丁寧に仕上げられた上面を持つ祭壇の多くは小さな凹みを持っており、何らかの液体の供物を置くようであるとしている。G、H建造物群で出土した祭壇は、先古典期末（ギジェン期）の年代を示している（Lowe, et al., 1982）。

多くは、石碑と対になっている（図8）。そのうちで、30基は素面石碑と対になっている（図8 a, b, c）。そして、19基は浮彫りが施された石碑と、2基は祭壇と、5基は対の石碑と祭壇に関連する。1基は、石彫と共に出土した。17基は関連する石彫がない。また、殆どの素面祭壇は建造物の近くに位置している。しかし、6基は関連する建造物がない。37、52号祭壇は、川が流れる谷間近くからみつかっている。75–77号祭壇は、62号建造物から東にあるイサパ川の西岸で石碑と対になっている。22、23号記念物は円形のテーブル状祭壇で、素面の石碑と祭壇の組み合わせの両側から出土している。同形の祭壇には26号記念物がある。96号建造物近くから出土した。30b号建造物で太鼓腹の小型石彫である70号記念物（80高×60幅cm）の前から小さな素面の90号祭壇が出土した。また、近くに供物などの遺物がない事例もあるが、祭壇若しくは儀礼上の標の可能性があるとされる。

一方、クラークは61号建造物に埋もれた祭壇石と広場で出土した祭壇を分析している（図8 d、Clark and Lee, 2013）。少し東側部分が欠けている40号祭壇は47号石碑と対になる。また、61号建造物の基線を介して、等距離に位置している。何らかの加工の痕跡がみられる43号祭壇はその上に壁がつくられている。46号祭壇は、43号祭壇と対になる。38号祭壇は上面と側面が整形されている。51号祭壇は、43、46号祭壇と同様に61号建造物に埋められた祭壇である。時期は先古典期後期（イツタパ期：紀元後50〜200年）である。一方、61号建造物は、

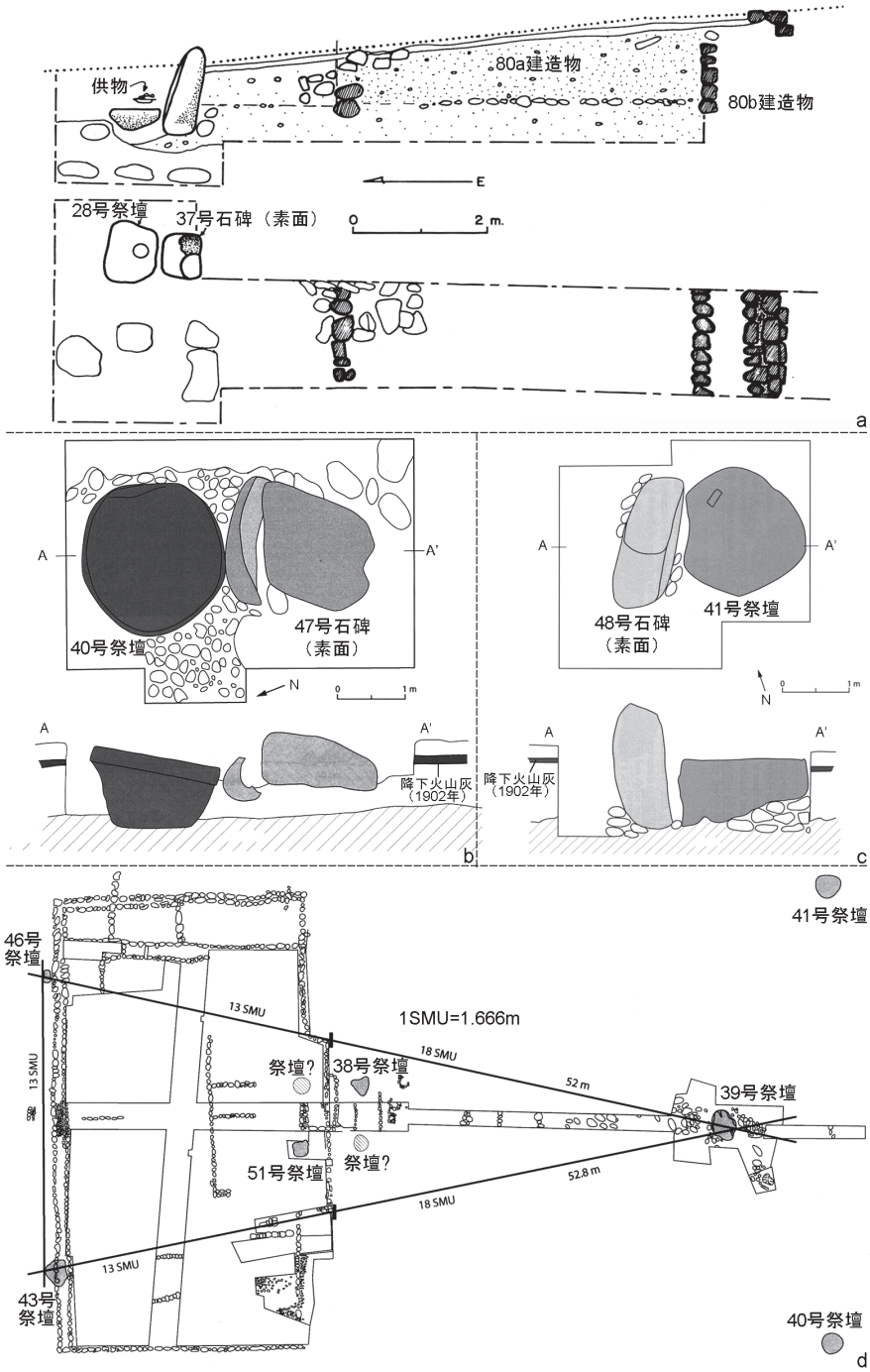


図8　イサパ遺跡出土素面祭壇

a. 28号祭壇、b. 40号祭壇、c. 41号祭壇、d. 61号建造物出土祭壇位置図
（a: Lowe, et al., 1982, fig. 12. 4に加筆修正、b, c, d: Clark and Lee, 2013, fig. 24, 25, 95に加筆修正）

地山を削平し、その上につくられている。そして、未発掘区にあると推定している祭壇2基が、それぞれ38、51祭壇と対になると仮定している。それらの祭壇間の距離を計測し、アステカ期の測量単位であるブラサダ（1単位(SMU)＝1.666m）を基準にして配置されていると考えている。

（7）ケン・サント遺跡

ゼラーが調査した時には、埋葬の1つでは、額の上に円盤状の石が載っていた。2006年に再調査した時には、盗掘者によって動かされていた円盤状石が6基あった。側面は粗く整形しているものから、滑らかに円形にしているものまであった。径は15.8cmから46cmまでで、高さは1、2号円盤が10cmぐらいである。6基以外に、ゼラーがドイツに運んだ2基の円盤状石がある。1基は赤く彩色され、もう1基（径25×厚6cm）は円形の溝を持ち赤彩されていた。用途は不明とされる（Guerra and Brady, 2009）。祭壇若しくは埋葬に対する儀礼に関連する可能性が考えられる。

（8）チャクラ遺跡

ケン・サント遺跡の円盤状石と同じ石彫が出土している。半分埋まった状態でみつかった。法量は径が78〜83cmである（Navarrete, 1979）。

（9）タフムルコ遺跡

素面祭壇は4基あるが、2基は装飾が施されていた可能性があるとされる。

A石彫は、I建造物の北側正面からやや北に離れたところで出土した。方形で上部が平らである。また、側面が僅かに凸状になり、端部は壊れている。法量は42×91.5×117cmである。H石彫は、南東テラスで出土した。不規則な方形で2側面は真直ぐで、もう2面は丸くなっている。上面は平らで、1側面にはかすかに線状の痕跡が残っている。法量は、38×55.3×76.2cmである。4号石彫は、やや膨らんだ円筒形である。法量は、48(高)×31.7(径) cmである。11号石彫は、4号石彫と同じ円筒形である。法量は、45.7(高)×38(径)cmである。4、11号石彫は発掘調査以前にみつかっているが、出土状況などは不明である（写真3a、Dutton and Hobbs, 1943）。

（10）ラス・コンチタス遺跡

1号石碑の東側、湧水点の近くから2基の素面祭壇が出土した。5号祭壇は大きな安山岩の平石で、不定形で上面に5条の溝がある。6号祭壇は方形で、しっかりと角を整形している（Love, 2010）。

(11) エル・オリンポ遺跡

出土状況等は不明である。平面円形で、上部にテーブル状に張り出した部分がある（写真1 b）。イサパ遺跡22、23、26号記念物と似ている（Ito, 2004; Wolley Schwarz, 2010）。

(12) タカリク・アバフ遺跡

5号祭壇が、2号石碑の前から出土している（Graham, 1979; Graham, et al., 1978; Graham and Porter, 1989）。素面円形で、直径が225cmあり、高さは40cmである（写真3 a）。8号祭壇は、12号建造物西正面階段前の5号石碑の西側に置かれている。26号祭壇は、12号建造物に対して8号祭壇の反対側の東側階段前に置かれ、その上にカエル形象石彫が載っている。8、26号祭壇は、円形の素面祭壇である。法量は、8号祭壇が50×218×242cm、26号祭壇が41×212(径)cmである。29号祭壇は、56号石碑の前に置かれている（写真1 c）。時期は、先古典期後期（紀元前300～250年）としている（Marroquin, 2005; Schieber de Lavarreda, 1998; Schieber y Orrego, 2001）。高さは不明であるが、85(幅)×85(長)の大きさである。一方、6号祭壇は、18号石碑の前にある（写真3 c、Orrego, 1990; Schieber y Orrego, 2010）。この祭壇は遺跡の模型と報告されているが、素面祭壇の可能性がある。ほぼ方形で、法量は48×184×243cmである。

(13) サマバフ遺跡

アティトラン湖底にある遺跡で、12基の石彫が出土している。そのうち、4基の素面祭壇と6基の素面石碑が出土している（Bove, 2011; Linares P. y Medrano, 2010; Medrano, 2011a, b; Medrano y Samayoa A., 2010）。このうちの2基は、エステラ建造物群があるテラスの端に位置している（図9 a）。2号記念物は1号記念物（素面石碑）と、4号記念物は3号記念物と対になる。先古典期後期とされる。

(14) チョコラ遺跡

3基出土している（写真1 d, e、Kaplan and Paredes Umaña, 2019）。5号記念物は、中央建築物群の広場から出土した。方形で、法量は110×100×50cmである。7号記念物は、7号建造物の東、6号建造物の南から出土した。8、9号記念物とともに出土した。法量は100×100×25cmで、円形である。10号記念物は、1号記念物と関連して出土した。円形で、法量は35×86×91cmである。また、時期は不明である。

(15) サン・ベルナルディノ遺跡

素面石碑2基とともにあった。1号祭壇は1、2号石碑から約34m離れている（Wolley Schwarz, 2010）。円形で、法量は40×97×110cmである。時期は不明である。

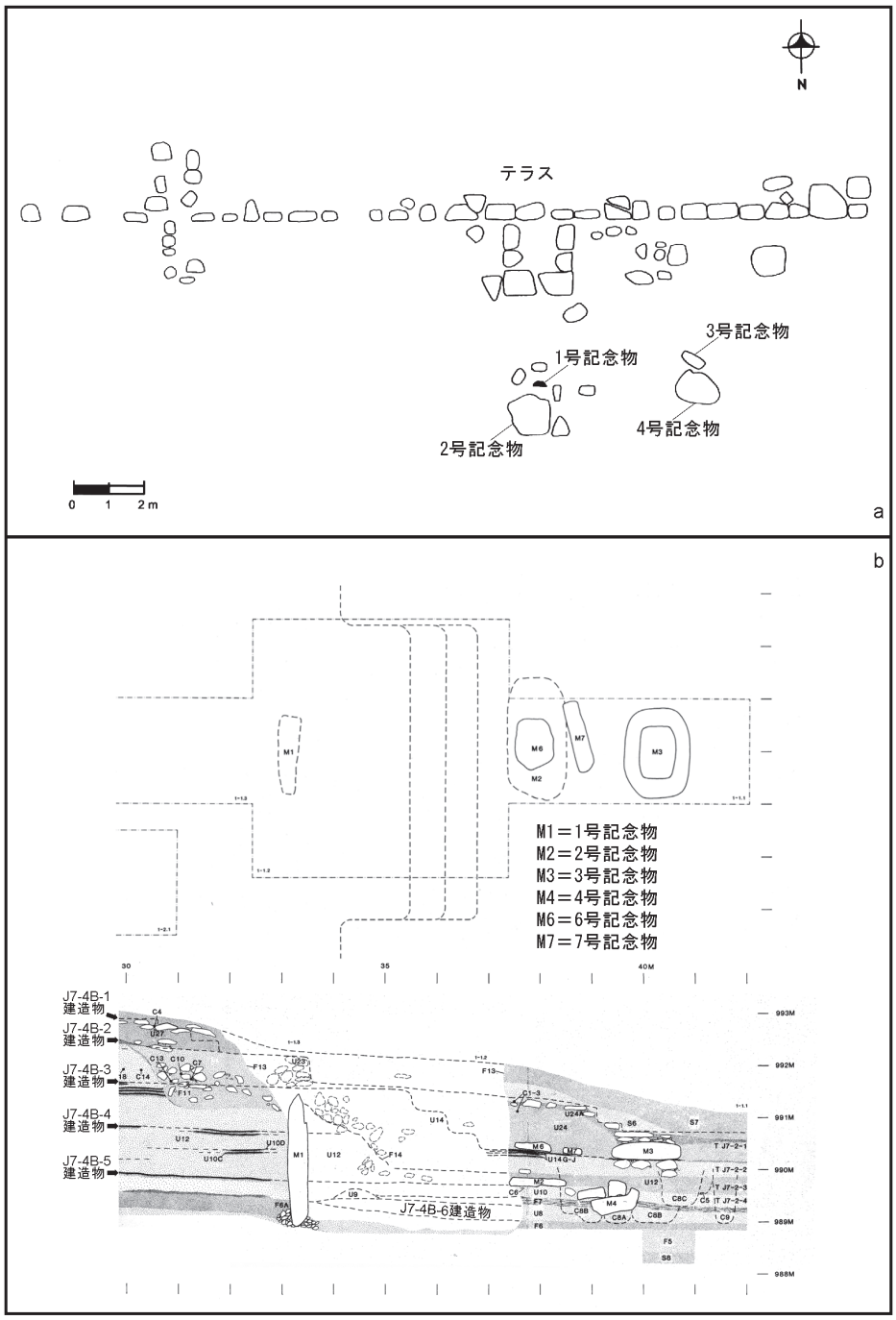


図９　サマバフ遺跡及びエル・ポルトン遺跡出土素面祭壇

a. サマバフ遺跡祭壇出土位置図、b. エル・ポルトン遺跡祭壇出土平面・断面図
（a: Medrano y Samayoa Asmus, 2010, fig. 2を改変、b: Sharer and Sedat, 1987, fig. 3.8, 10を改変）

(16) パロ・ゴルド遺跡

2、3、4号記念物は共にB3建造物のトレンチで出土した（Termer, 1973）。2、3号記念物は円形の素面祭壇石である。石碑と思われる4号記念物は、イグアナが3匹浮彫りされた柱状石である。法量は、2号記念物が25×98×193cm、3号記念物が60×60×60cmである。

5号記念物より20cm下で、円形祭壇石（6号記念物）が出土している。法量は40×128×130cmである。5号記念物（1.55×2.00×0.30m）は、素面の石碑で傾斜した状態で出土している。

(17) ビルバオ遺跡

A建造物群がのるテラスから南に少し離れたところに位置する19号記念物の東前に、素面祭壇が出土している（図10a）。サンタ・ルシア期（紀元後700〜930年）とされ、床2直上から出土している。平面形は方形で、法量は54×152×178cmである。上面の端部分は丸く整形された可能性がある（Parsons, 1967, 1969）。

記念物広場（Monument Plaza）では、42号記念物（浮彫りのある石碑の破片）の下から、素面円形祭壇の43号記念物が出土している（図10b、写真1g）。また、南に少し離れた位置から、別の素面祭壇石が出土している（写真1e）。報告者は、42号記念物に対する祭壇である可能性を指摘している。43号記念物は、径80cm厚さ18cmの円形で、縁の部分がやや高くなっている。中央部分に焼けた痕跡と炭化物があった（Parsons, 1967, 1969）。もう1基は、方形素面祭壇の破片である。帯状に張り出す部分が基部を廻っている。法量は、76×55×27.5cmである。時期は、ラグネタ期（紀元後400〜700年）以前とされる。

(18) ラ・モレナ遺跡

建造物群のF建造物頂部に設けられた試掘坑から出土している（Bove, 1989）。供物（土器）の下を掘り下げたときに、表土からの深さが130〜170cmで素面の石彫が出土した。関連して出土した土器は先古典期中期〜後期で、サカテペケ白色土器を多く含んでいた。この石彫は、石碑もしくは祭壇とされる。平面形は不定形で、法量は70×40×30cmである。

(19) モンテ・アルト遺跡

シュークの調査カードによると、27号建造物西基部から、方形の素面祭壇が出土している（Shook, s. f.）。また、人工的痕跡が何もみられない素面の自然石（Plain Boulder）も60基以上みつかっている。素面祭壇の中には、上から下に斜めになるように側面が整形されている事例もある（写真4a, b）。29号建造物では、西の階段に向かって右横側に3号素面祭壇が出土している（写真4a）。この祭壇も方形に整形されているようである。また、この建造物の南西角では、円形の1号素面祭壇が出土している。他に、大小さまざまな円形素面祭壇が出土して

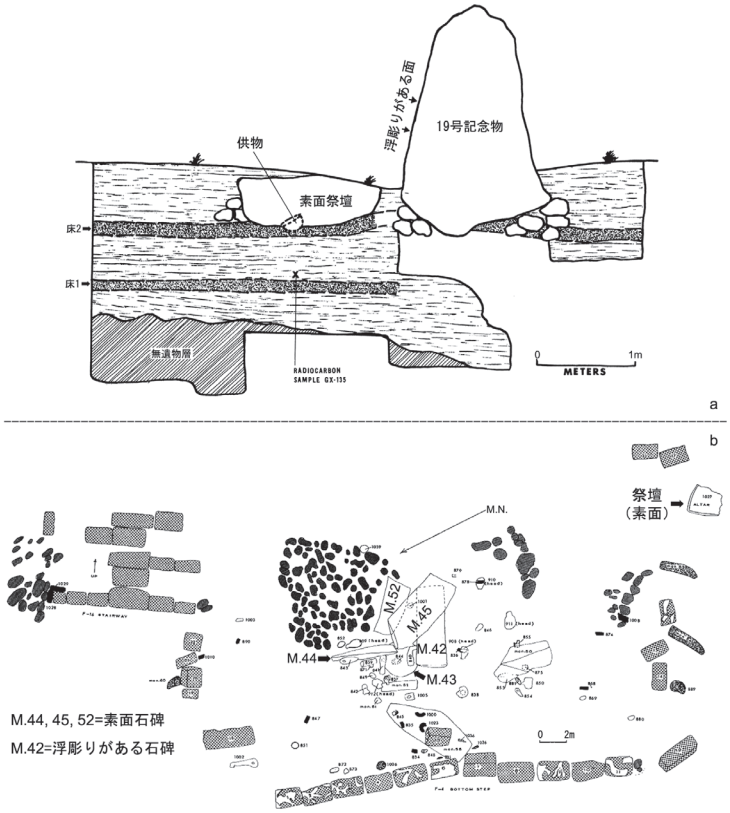


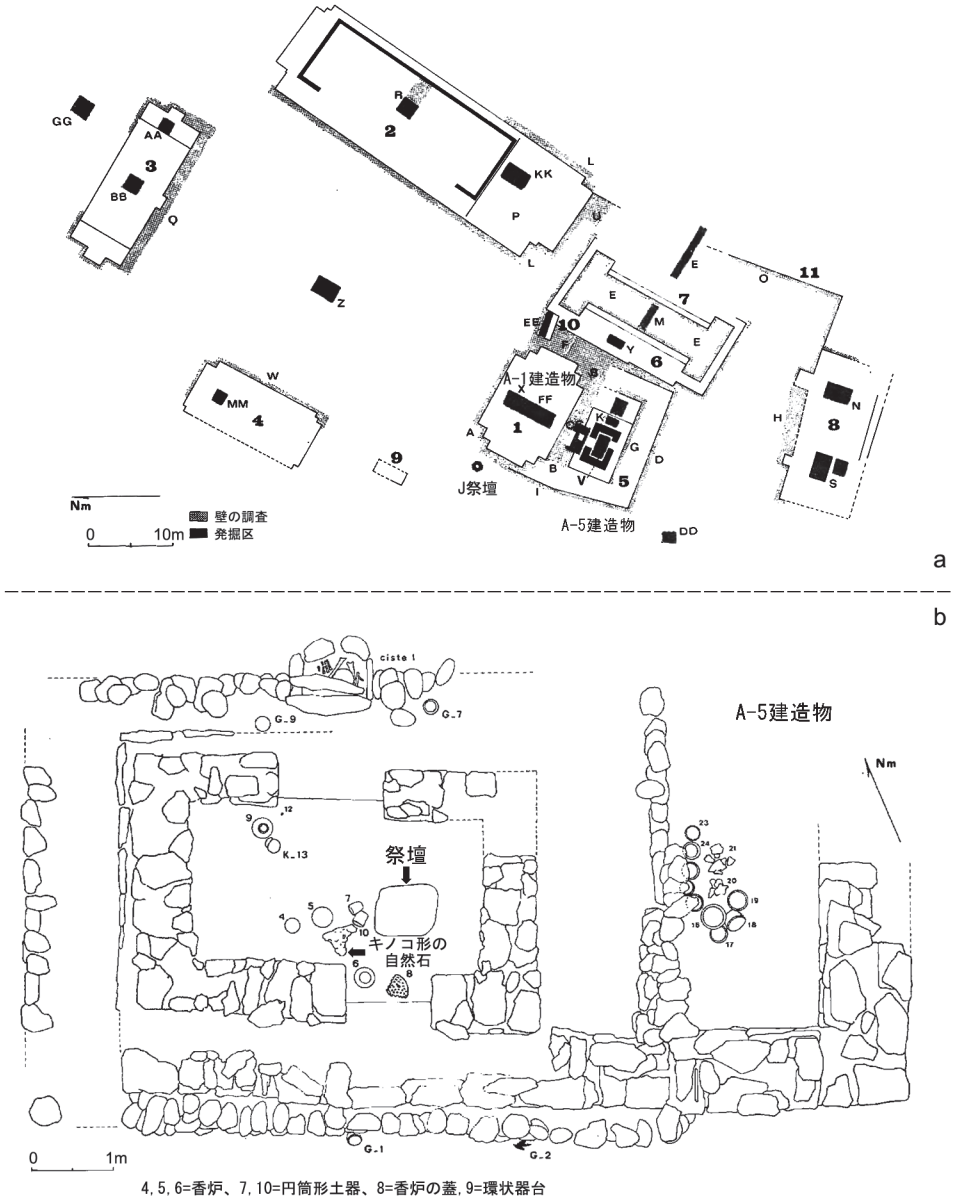
図10 ビルバオ遺跡出土素面祭壇

a. 19号記念物前出土素面祭壇、b. 43号記念物と素面祭壇出土位置平面図
（a, b: Parsons, 1969, fig. 12, 15に加筆・修正）

いる（写真3 d）。時期は報告されていないが、パーソンズによれば、先古典期後期（紀元前500～200年）とされる（Parsons, 1986）。

(20) エル・ホコテ遺跡

A建築複合で、2基の素面祭壇が出土している。後古典期のA–1建造物の北西3 mの位置から円形素面のJ祭壇が出土した（図11a）。法量は39×48×95cmである。半分が埋まって、傾いた状態であった。J祭壇の基部から後古典期の香炉片が出土したが、報告者は古典期後期の可能性を考えている。また、A–5建造物（古典期後期）の神殿内から石灰岩の平石が出土した（図11b）。平面方形で、法量は29×66×87cmである。近くから出土したキノコ形の自然石を置いたと考えている（Ichon et Grignon, 1981）。出土状況から、素面祭壇と考えられる。



4, 5, 6=香炉、7, 10=円筒形土器、8=香炉の蓋, 9=環状器台

図11　エル・ホコテ遺跡出土素面祭壇

a. 祭壇 J 出土位置図、b. 1A–5建造物神殿内出土素面祭壇（a, b: Ichon, et al., fig. 6, 25改変）

(21) タンポマ遺跡

A 建造物群の 1 号建造物西正面に立つ石碑の西側にある。石碑に関連する発掘から出土した土器は、古典期後期とされる（Smith, 1955）。法量は不明である。

(22) エル・ポルトン遺跡

主要建造物群のJ7–4建造物の発掘で5基の素面祭壇が出土している。J7–4建造物は、J7–4A建造物とJ7–4B建造物とからなっている。J7–4B建造物は、最も古い建造物がJ7–4B–6建造物である。2号記念物は1号記念物（文字が彫られている）と共に、J7–4B–5建造物の西側から出土した（図9b）。この建造物から西に位置する1号記念物の西約3mの位置に2号記念物がある。トル期（紀元前500〜200年）とされる。法量は、230×110×18cmである。素面の祭壇で、楕円形をしている（Sharer and Sedat, 1987）。

6号記念物は、J7–4B–4建造物を増築してつくられたJ7–4B–3建造物の西正面階段前に7号記念物（素面石碑）と共に出土した。また、その更に西1mには上部に方形のくぼみを持つ3号記念物（祭壇）がある。ウク期（紀元前200〜1年）とされる。

M1石彫はJ7–4B–1建造物の4号埋納近くから出土している。素面の円盤形で、中央部分に少し焼けた痕跡と赤色顔料の付着がある。法量は、52（径）×9cmである。この建造物に関連して、同様の石が2点出土している。M4石彫は、粗く円形に整形されて中央部分に焼けた凹みがある。M5石彫は一部端が欠けた円形に整形されており、M1、4石彫と同様に焼けた跡と赤色顔料が表面に観察できる。法量は、M4石彫が42（径）×12cm、M5石彫が61（径）×16cmである。ケフ期（紀元後1〜200年）とされる。

(23) エル・ナランホ遺跡

遺跡の西側にある南北に並ぶ建造物群の東に3列の石列、西には1列の石列がある。3基の素面祭壇石が、第1石列に属している（Arroyo, 2010）。この石列は、遺跡で確認されている4列の石列のうちで、最も建造物群に近く東側に位置する（図12a）。第一石列の最も南に位置する4号記念物（素面石碑）の西前から、1号祭壇が出土した（図12c）。やや楕円形をした不定形で、法量は197×108×49cmである。この石碑–祭壇から直ぐ北に位置する3号記念物（素面石碑）の西前に2号祭壇があった（図12b）。不定形で、法量は100×84×33cmである。この祭壇石がのる床面から出土した炭化物は紀元前800〜750年の年代が示されている。3号祭壇は8号記念物とともに出土した。この祭壇は、8号記念物（素面石碑）の東側に位置している。法量は60×30×12cmである。

(24) ウフシュテ遺跡（サンタ・ロサ県）

6基の素面祭壇が、建造物5基から成る建築複合に関連して出土している（図12h、Estrada Belli, 1999; Estrada Belli, et al., 1997）。1、2号祭壇は、建築複合東に位置する建造物の西側に位置する。1号祭壇（25×100×75cm）は、7号石碑（素面）正面から出土している（図12d）。2号祭壇（27×80×137cm）は、4号石碑（素面）の前から出土している（図12e）。3号祭壇は、建築複合西にある建造物の東、6号石碑（素面）の前から出土している（図

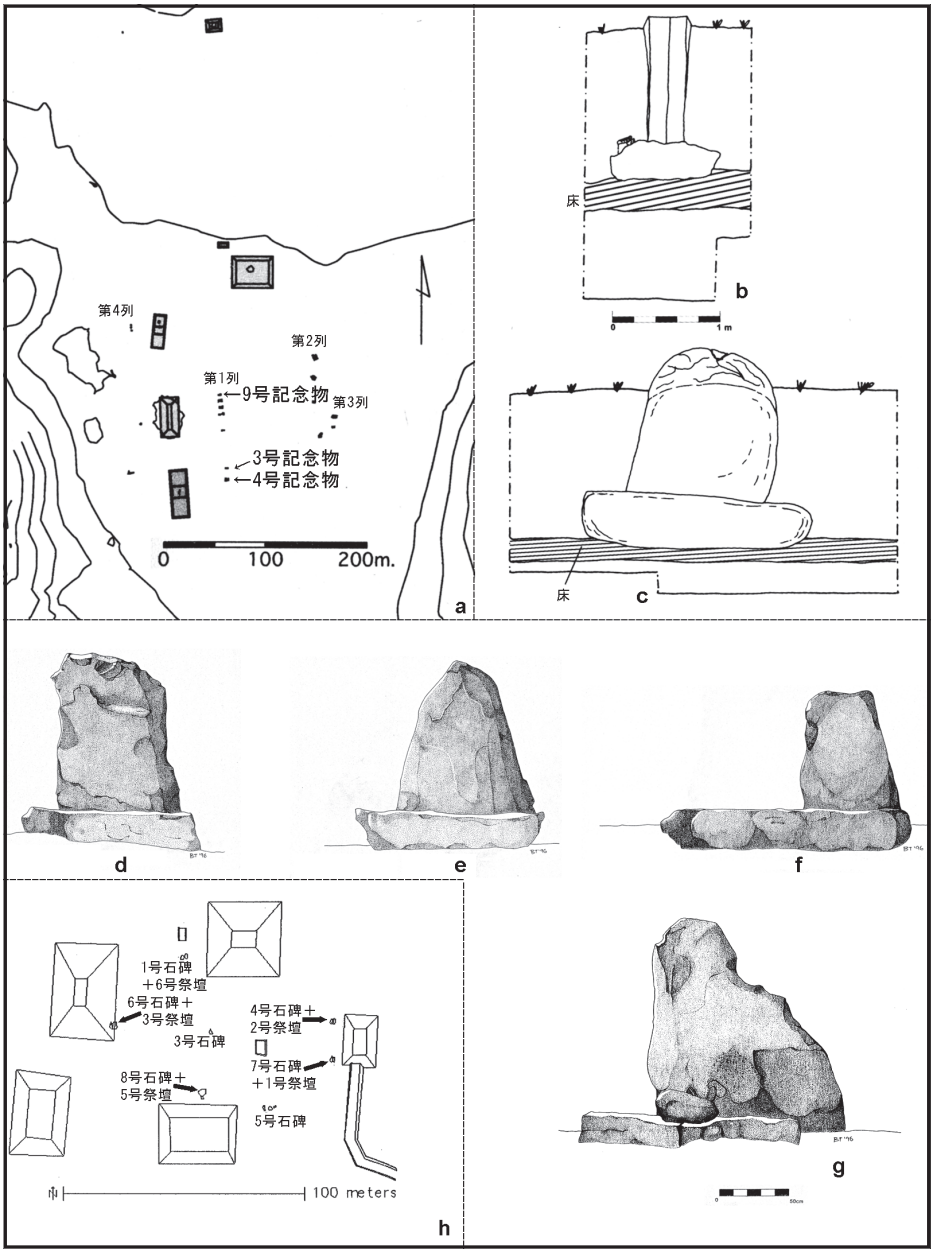


図12　エル・ナランホ遺跡及びウフシュテ遺跡出土素面祭壇

エル・ナランホ遺跡：a. 建造物と石列位置図、b. 2号祭壇と3号記念物、c. 1号祭壇と素面4号記念物
（a, b, c: Arroyo, 2010, fig. 4. 1, 5. 8, 10に加筆・修正）

ウフシュテ遺跡：d. 1号祭壇と7号石碑、e. 2号祭壇と4号石碑、f. 5号祭壇と8号石碑、
g. 3号祭壇と6号石碑、h. 建造物・石彫位置図
（d, e, f, g: Estrada Belli, et al., 1997, fig. 4, 5に加筆・修正、h: Estrada Belli, 1999, fig. 3. 22に加筆修正）

12g)。5号祭壇は、建築複合南にある建造物の北、8号石碑（素面）の前から出土している（図12f)。6号祭壇（24×44×53cm）は、建築複合北にある建造物西にある号石碑の近くから出土している。4号祭壇は、9、11号石碑（素面）の間で出土している。先古典期後期（セイバ期：紀元前400〜200年）とされる。また、祭壇と石碑の軸は、東偏96度で、春秋分との関係を示すものであるとしている。

(25) アタコ遺跡

1基の方形祭壇がジャガー頭部石彫などと出土している（Paredes Umaña, 2012)。しかし、工事中に出土しているために、出土状況については不明である。出土後に盗難にあったために、現在どこにあるかは不明である。方形素面である。

3．メソアメリカ南東部太平洋側で出土した素面祭壇の特徴

素面祭壇の形状をみると、その平面形が円形の祭壇は73基ある（表1)。方形は23基、楕円形は11基、三角形は4基、台形は1基、不定形は37基ある。また、平面が円形の祭壇のうち、高さがなく円盤形になる祭壇が多いが、高さがあり円筒形になるのは、5基ある。

時期をみると、素面祭壇は先古典期中期から後古典期まである。そのうちで、不定形と楕円形祭壇は先古典期中期から先古典期後期まで、円形は先古典期後期と古典期後期から後古典期まである。また、円筒形は先古典期後期と後古典期にみられ、連続性がない。

出土状況をみると、建造物に関連し、殆どが、建造物の前にある。一方、建造物の上にある祭壇がある。そのなかで、イグレシア・ビエハ遺跡E–1建造物の上にある素面方形祭壇は下に4つの球状石がある。先古典期後期にみられる4脚付きテーブル状祭壇は一つの石からつくられた石彫であるが、4つの球状石が素面祭壇に付加されたことを除けば同じ形の石彫である（伊藤 2001a, b, 2004, 2022; Ito y Stuart, 2019)。先古典期後期の4脚付きテーブル状祭壇は玉座とされることと、脚が付加された素面祭壇が建造物の上にあることを考慮すると玉座として考えられる。同様に、3号祭壇は素面円形で、その下には4点の石のブロックがある。これも玉座として考えられる。しかし、4脚付きテーブル状祭壇の多くは建造物の前にあるが、この素面祭壇は建造物の背面にある。この祭壇の前そして建造物側に素面石碑がたっていることを考慮すると、建造物と石碑に関する儀礼に関連していたと考えられる。この遺跡では他とは異なる王権に関する儀礼が建造物の背後で行われた可能性がある。また、エル・ホコテ遺跡A–5建造物では、神殿内部から方形素面祭壇が出土している。報告者はキノコの形状をした自然石を置いた台座としているが、重要な儀礼に関係していると考えられる。また、神殿内部にあり、玉座若しくはこの神殿に対する祭壇とも考えられる。

素面祭壇に関連する石彫は、石碑が最も多く、96基ある。これらの石碑は、殆どが素面で

表１　素面の祭壇

遺　跡	時　期	石彫	平面形	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	関連する建物・遺構	関連石彫	図・写真
イグレシア・ビエハ	?	2号祭壇	円形	25	97	98	C–12建造物	4号石碑（素面）	図6 a
	?	3号祭壇	円形	52	143	165	D–12建造物	6号石碑（素面）	図6 b
	?	4号祭壇	方形	21	43	52	E–1建造物	7号石碑（素面）	図6 c
	古典期後期～後古典期	—	方形	60	115	115	B–2建造物	—	Kaneko, 2006
ツツクリ	先古典期中期	—	不定形	—	67	112	4号建造物	3，4号記念物	図7
ベラクルスII	先古典期後期～後古典期？	円形祭壇		—	—	—	建造物(階段)	基壇	Navarrete, 1960
アレマニア	古典期後期～植民地期？	円形祭壇	円形	—	—	—	建造物	基壇	Navarrete, 1960
サンタ・イサベルII	古典期後期	?	円形	—	—	—	建造物(頂部)	素面石碑	Navarrete, 1960
イサパ	—	4号祭壇	円形	40	138	157	56号建造物	6号石碑	
	—	5号祭壇	円形	20	137	137	30d建造物	8号石碑	
	—	6号祭壇	円形	65	205	205	30d建造物	9号石碑	
	—	7号祭壇	円形	25	118	138	30d建造物	10号石碑	
	—	8号祭壇	不定形	50	180	200	47号建造物	12号石碑	
	—	9号祭壇	不定形	52	130	130	9号建造物	13号石碑（素面）	
	—	10号祭壇	円形	30	150	185	9号建造物	14号石碑	
	—	11号祭壇	円形	—	115	140	9号建造物	15号石碑（素面）	
	—	12号祭壇	円形	48	100	137	9号建造物	16号石碑	
	—	14号祭壇	円形	28	157	175	23号建造物	18号石碑	
	—	15号祭壇	円形	70	190	200	23号建造物	45号石碑	
	—	17号祭壇	円形	37	87	125	82号建造物	20号石碑	
	—	18号祭壇	円形	30	120	120	56号建造物	21号石碑	
	—	19号祭壇	円形	25	117	117	56号建造物	23号石碑	
	—	21号祭壇	楕円形	33	110	145	56号建造物	26号石碑	
	—	22号祭壇	円形	20	90	95	30b建造物	63号石碑（素面）	
	—	23号祭壇	円形	30	120	130	45号建造物	29号石碑（素面）	
	—	24号祭壇	方形	40	75	100	55号建造物	33号石碑（素面）	
	—	25号祭壇	方形	25	77	118	55号建造物	34号石碑（素面）	
	—	26号祭壇	不定形	50	100	175	55号建造物	35号石碑（素面）	
	—	27号祭壇	方形	54	90	150	55号建造物	36号石碑（素面）	
	—	28号祭壇	方形	37	75	100	80号建造物	37号石碑（素面）	図8 a
	—	29号祭壇	円形	30	90	105	82号建造物	38号石碑（素面）	
	—	30号祭壇	円形	35	140	155	16号建造物	40号石碑（素面）	
	—	31号祭壇	不定形	25	90	—	9号建造物	41号石碑（素面）	
	—	32号祭壇	不定形	38	125	147	9号建造物	42号石碑（素面）	
	—	33号祭壇	不定形	45	170	185	9号建造物	43号石碑（素面）	
	—	34号祭壇	不定形	36	110	125	9号建造物	44号石碑（素面）	
	—	35号祭壇	不定形	75	175	255	46号建造物	—	
	—	36号祭壇	不定形	65	140	170	56号建造物	5号石碑	
	—	37号祭壇	円形	—	—	—	—	49号石碑（素面）	
	—	38号祭壇	三角形	40	134	162	61号建造物	—	図8 d
	—	39号祭壇	円形	60	170	195	B広場	—	図8 d
	—	40号祭壇	円形	100	195	200	B広場	47号石碑（素面）	図8 b
	—	41号祭壇	円形	100	165	180	B広場	48号石碑（素面）	図8 c
	—	42号祭壇	方形	55	185	—	73号建造物	—	
	—	43号祭壇	不定形	55	190	250	61号建造物	—	図8 d
	—	44号祭壇	不定形	40	85	105	47号建造物	50号石碑	
	—	46号祭壇	不定形	40	50	90	61号建造物	—	図8 d
	—	47号祭壇	不定形	76	167	280	70号建造物	—	

遺　跡	時　期	石彫	平面形	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	関連する建物・遺構	関連石彫	図・写真
イサバ	—	48号祭壇	不定形	64	126	138	60号建造物	53号石碑（素面）	
	—	49号祭壇	不定形	190	176	228	70号建造物	—	
	—	50号祭壇	楕円形	28	105	130	50号建造物	—	
	—	51号祭壇	不定形	50	120	130	61号建造物	—	図8 d
	—	52号祭壇	円形	—	—	—	—	49号石碑・37号祭壇	
	—	55号祭壇	不定形	30	55	80	131号建造物	87–89号祭壇	
	—	56号祭壇	不定形	50	100	130	125号建造物	62号石碑（素面）	
	—	57号祭壇	円形	40	77	109	125号建造物	65号石碑（素面）	
	—	58号祭壇	楕円形	40	145	195	75号建造物	66号石碑（素面）	
	—	59号祭壇	不定形	30	53	175	131号建造物	87–89号祭壇	
	—	62号祭壇	不定形	55	160	180	10号建造物	—	
	—	66号祭壇	不定形	80	75	135	—	76号石碑（素面）	
	—	69号祭壇	不定形	30	60	75	47号建造物	11号石碑	
	—	70号祭壇	不定形	28	39	73	82号建造物	39号石碑	
	—	71号祭壇	方形	30	65	75	126号建造物	87号石碑（素面）	
	—	72号祭壇	不定形	30	60	67	127号建造物	64号石碑（素面）	
	—	73号祭壇	不定形	30	65	80	127号建造物	68号石碑（素面）	
	—	74号祭壇	方形	30	54	70	126号建造物	85号石碑（素面）	
	—	75号祭壇	円形	34	120	144	—	79号石碑（素面）	
	—	76号祭壇	三角形	25	65	85	—	80号石碑（素面）	
	—	77号祭壇	方形	35	75	120	—	82号石碑（素面）	
	—	78号祭壇	楕円形	40	75	136	9号建造物	10号祭壇	
	—	79号祭壇	方形	52	37	115	9号建造物	14号石碑・10号祭壇	
	—	80号祭壇	円形	27	95	134	9号建造物	14号石碑・10号祭壇	
	—	81号祭壇	楕円形	30	45	85	9号建造物	16号石碑・12号祭壇	
	—	82号祭壇	円形	26	68	140	9号建造物	42号石碑（素面）・32号祭壇	
	—	83号祭壇	楕円形	23	46	85	9号建造物	42号石碑（素面）・32号祭壇	
	—	84号祭壇	円形	20	56	70	9号建造物	42号石碑（素面）・32号祭壇	
	—	86号祭壇	方形	30	55	65	131号建造物	—	
	—	87号祭壇	不定形	30	65	70	131号建造物	—	
	—	90号祭壇	—	25	—	—	30b号建造物	70号記念物	
	—	5号記念物	円筒形	130	75	90	30d建造物	—	
	—	7号記念物	円筒形	115	58	58	30d建造物	10号石碑	
	—	9号記念物	円筒形	135	93	93	30d建造物	8号石碑	
	—	12号記念物	三角形	185	220	240	60, 71号建造物	—	
	—	13号記念物	三角形	50	90	62	60, 71号建造物	—	
	—	22号記念物	円形	36	70	70	30b建造物	63号石碑（素面）・22号祭壇	
	—	23号記念物	円形	23	60	60	30b建造物	63号石碑（素面）・22号祭壇	
ケン・サント	古典期後期～後古典期	1号円盤	円形	10	33.5	33.5	—	—	Guerra et al., 2009, fig. 24
		2号円盤	円形	12	28	28	—	—	ibid., fig. 25
		3号円盤	円形	—	46	46	—	—	ibid., fig. 26
		4号円盤	円形	—	15.8	15.8	—	—	ibid., fig. 27
		5号円盤	円形	—	21.3	21.3	—	—	ibid., fig. 28
		6号円盤	円形	—	18	18	—	—	ibid., fig. 29
		円形祭壇	円形	—	—	—	—	—	ibid., fig. 30
		円形祭壇	円形	—	—	—	—	—	Navarrete, 1979, fig. 23. d

遺　跡	時　期	石彫	平面形	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	関連する建物・遺構	関連石彫	図・写真
チャクラ	古典期後期～後古典期	素面祭壇	円形	—	78	83	—	—	
タフムルコ	後古典期	4号石彫	円筒形	48	29	31.7	—	—	写真 3 a
	後古典期	11号石彫	円筒形	45.7	31.8	38	—	—	Dutton, et al., fig. 22d
	後古典期	A石彫	方形	42	91.5	109	I 建造物	—	
	後古典期	H石彫	方形	38	52.7	76.2	南東テラス	—	
ラス・コンチタス	—	5号祭壇	不定形	—	—	—	—	—	Love, 2010, 7.19.a
	—	6号祭壇	方形	—	—	—	—	—	Love, 2010, 7.19.b
エル・オリンポ	—	—	円形	30	60	53	—	—	写真 1 b
タカリク・アバフ	—	5号祭壇	円形	—	225	225	—	2号石碑	
	—	7号祭壇	—	50	200	190	8号建造物	15号石碑（素面）	
	先古典期後期	8号祭壇	円形	50	218	242	12号建造物	5号石碑	写真 3 b
	—	9号祭壇	—	27	155	102	11号建造物	12号石碑	
	—	19号祭壇	—	—	—	—	10号建造物	44号石碑（素面）	
	—	20号祭壇	—	—	—	—	10号建造物	45号石碑（素面）	
	—	23号祭壇	—	20	56	35	13号建造物	—	
	—	24号祭壇	—	33	66	67	13号建造物	—	
	—	26号祭壇	円形	41	212	212	12号建造物	—	
	—	27号祭壇	—	—	—	—	13号建造物	—	
	先古典期後期	29号祭壇	方形	—	85	85	—	—	
	—	40号祭壇	—	—	—	—	4号建造物	32号石碑（素面）	
	—	41号祭壇	—	—	—	—	4号建造物	49号石碑（素面）	
サマバフ	先古典期後期	2号記念物	不定形	—	105	111	○	素面石碑	図 9 a
		4号記念物	円形	—	114	114	○	素面石碑	図 9 a
チョコラ	—	5号記念物	方形	50	100	110	—	—	
	—	7号記念物	円形	44	104	113	—	—	写真 1 d
	—	10号記念物	円形	35	86	91	12号建造物	—	写真 1 e
サン・ベルナルディノ	—	1号祭壇	円形	40	97	110	—	—	Wolley, et al., 2010, foto. 6.22
パロ・ゴルド	—	2号記念物	円形	25	98	193	B3建造物	—	Termer, 1973, Ab. 39, 41
	—	3号記念物	円形	60	60	60	B3建造物	—	Termer, 1973, Ab. 39
	—	6号記念物	円形	40	128	130	C6建造物	—	Termer, 1973, Ab. 62, 63
ビルバオ	古典期後期	祭壇	方形	54	152	178	—	19号記念物	図10a
		祭壇	方形	27.5	55	76	記念物広場	42号記念物	写真 1 f
	古典期後期以前	43号記念物	円形	12.5	80	80	記念物広場	—	写真 1 g
ラ・モレナ	先古典期中期～後期	—	不定形	30	40	70	F 建造物	—	Bove, 1989, fig. 70
エル・ホコテ	古典期後期～後古典期	J 祭壇	円形	39	48	95	A–1建造物	—	図11a
	古典期後期	石灰岩平石	方形	29	66	87	A–5建造物	—	図11a, b
タンポマ	古典期後期	—	円形	—	—	—	1号建造物	素面石碑	Smith, 1955, fig. 38
エル・ポルトン	先古典期後期	2号記念物	楕円形	18	110	230	J7–4B–5建造物	1号記念物（石碑）	図 9 b
		6号記念物	楕円形	20	70	97	J7–4B–3建造物	7号記念物（素面石碑）	同上
		M. 1石彫	円形	9	52	52	J7–4B–1建造物	—	
		M. 4石彫	円形	12	42	42	J7–4B–1建造物	—	
		M. 5石彫	円形	16	61	61	J7–4B–1建造物	—	

遺　跡	時　期	石彫	平面形	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	関連する建物・遺構	関連石彫	図・写真
エル・ナランホ	先古典期中期	１号祭壇	楕円形	49	108	197	—	４号記念物	図12a, c
		２号祭壇	楕円形	33	84	100	—	３号記念物	図12a, b
		３号祭壇	?	12	30	60	—	８号記念物	図12a
ウフシュテ	先古典期後期	１号祭壇	不定形	25	50	100	建造物	７号石碑（素面）	図12d, h
		２号祭壇	不定形	27	80	137	建造物	４号石碑（素面）	図12e, h
		３号祭壇	不定形	—	—	—	建造物	６号石碑（素面）	図12g, h
		４号祭壇	不定形	—	—	—	建造物	10, 11号石碑(素面)	Estrada B., 1999, fig. 7
		５号祭壇	台形	—	—	—	建造物	８号石碑（素面）	図12f, h
		６号祭壇	不定形	24	44	53	建造物	３号石碑	Estrada B., 1999, fig. 6
チャルチュアパ	先古典期後期	２号記念物	楕円形	24	75	100	E3–1建造物	１号記念物（石碑）	図４a
		—	方形	37	58	68	—	—	図４b
		東祭壇	方形	50	55	80	E3–2建造物	素面石碑	図５
		西祭壇	不定形	40	84	90	E3–2建造物	素面石碑	同上
		—	不定形	50	120	180	５（C3–6）号建造物	石碑（素面）	図４c
	古典期後期	—	方形	—	—	—	１a建造物（B1–1）	—	Carnegie Institute of Washington, 1929
アタコ	—	—	方形	25	100	100	—	—	Paredes Umaña, 2012

ある。また、対となっている石碑と祭壇に素面祭壇が更に置かれる事例もあるが、イサパ遺跡に限られる。一方、浮彫りが施された石碑と対になる素面祭壇もある。ツツクリ、イサパ、タカリク・アバフ、ビルバオ、エル・ポルトン遺跡が挙げられる。大半は一つの石碑に対して、一つの素面祭壇がある。しかし、ツツクリ遺跡では、素面祭壇の両脇に石碑が配置され、その前にたて穴式石室がある（図７）。重要な人物の埋葬に関連して石碑と祭壇が置かれ、埋葬儀礼と関係があると考えられる。石碑でなく石彫に関連する素面祭壇もある。イサパ遺跡では、太鼓腹石彫の前に置かれており、この石彫に対する祭壇と考えられる。タカリク・アバフ遺跡では、素面円形祭壇にのるような状態でカエル形象石彫が置かれている。タカリク・アバフ遺跡では、イサパ遺跡とは異なる儀礼に使われた可能性がある。イサパ遺跡では、石碑でもなく、丸彫り石彫でもなく、祭壇と関連して出土している事例がある。祭壇を複数使った儀礼に使われたことも考えられる。

一方、関連する石碑や石彫がなく建造物との関連が考えられる素面祭壇は、30基ある。イサパ遺跡では、何らかの意図をもって建造物内部に埋められた素面祭壇がある。また、同遺跡では建造物に囲まれた広場に置かれた素面祭壇もある。建造物や石彫に関連しない素面祭壇もある。ラス・コンチタス遺跡では、湧水点と関連がある。タカリク・アバフ遺跡29号祭壇は、56号石碑と共に出土しているが、湧水点に近い。イサパ遺跡では、川の近くに石碑と共に置かれる素面祭壇がある。これらは水に関する儀礼に対しての祭壇と考えられる。また、17基は関連する遺構や遺物が不明である。このうちで、ケン・サント遺跡のものは、埋葬と関連がある可能性がある。

４．チャルチュアパ遺跡出土素面祭壇とメソアメリカ南東部太平洋側

チャルチュアパ遺跡では、石碑と共に出土した素面祭壇 3 基、建造物と関連して出土した素面祭壇 1 基がある。また、石碑と関連する可能性のある素面祭壇も 1 基ある。一方、遺構・遺物に関連しない祭壇が 1 基ある（図13）。これらの素面祭壇をメソアメリカ南東部太平洋側出土素面祭壇と比較し、その意味を検討する。

E3–1建造物から出土した素面祭壇（ 2 号記念物）は、近くに文字が彫られた石碑（ 1 号記念物）が出土している。しかし、この石碑は破片であり、儀礼的に殺されたものとしても考えられる（伊藤 2016, 2017）。 2 号記念物は、壊された痕跡のない素面石碑（ 4 号記念物）と対になると考えられる。また、カサ・ブランカ地区 5 号建造物前出土素面祭壇は素面石碑と対になっている。これらの素面祭壇はメソアメリカ南東部太平洋側で広くみられる石碑と祭壇の組み合わせといえる。しかし、タスマル地区出土素面祭壇は、建造物前から単独で出土している。この祭壇は、後代の建造物におおわれていることもあり、石碑と対になっていたのかなど、その詳細は不明である。

E3–2建造物の南側で出土した素面石碑と共に出土した素面祭壇 2 基は、エル・ポルトン遺跡で横になった素面石碑と共に出土した素面祭壇と比較できる。エル・ポルトン遺跡では、文字が彫られた石碑（ 1 号記念物）に対して、素面祭壇（ 2 号記念物）が置かれた。その後、 1 号記念物が埋められてつくられた J7–4B–3建造物の前、そして、 2 号記念物の真上に素面祭壇（ 6 号記念物）が、横になった素面石碑（ 7 号記念物）と共に出土した（Sharer and Sedat, 1987）。これは、チャルチュアパ遺跡の素面石碑と素面祭壇の出土状況と似ている。しかし、エル・ポルトン遺跡では同じ床面上から上面に凹みを持つ祭壇（ 3 号記念物）が少し離れて置かれている。また、この祭壇と素面石碑は、後代の建造物によってその内部に埋納されている。一方、チャルチュアパ遺跡では素面祭壇 2 基が層を異にして出土している。東祭壇は素面石碑とともに、後代の床の内部に埋められている。これは、エル・ポルトン遺跡の素面祭壇は建造物内部であることを除けば、後代の構築物によって埋納される点では同じ行為と考えられる。しかし、西祭壇は埋められた祭壇と素面石碑を掘り返した後に置かれるという点で異なる。これらは素面石碑の機能の終結に伴う儀礼と終結後の儀礼と考えられ、常にこの石碑を意識していた。

遺構や遺物と関連していない単独で出土した素面祭壇は方形である。一方、その床面をみると、さらに E3–1建造物に向かって、北のほうに東西に延びる石列があり、その北側には半円形の集石遺構がある（図13）。そして、この素面祭壇の中心軸を北に延ばすと、この半円形の集石遺構に達する。また、この床面の後の時期に属する床面に設置された西側のジャガー頭部石彫に至る。つまり、軸線の方向を変えることなく、ジャガー頭部石彫が設置された時期に引き継がれている。このように、構築物をつくる際に前代の素面祭壇を埋めて、新しい構築物を

図13 エル・トラピチェ地区 E3–1建造物南発掘区検出遺構平面図

1＝頭部石彫に関する基線、2＝素面祭壇に関する基線、3＝石列に関する基線、4＝石の建造物に関する基線

つくるという行為は、イサパ遺跡の建造物内に埋める素面祭壇と同じ意味を持つ可能性がある。また、当時の広場に設置されたと考えられるが、イサパ遺跡61号建造物の東西方向の基線と比べると、チャルチュアパ遺跡では南北方向になっている点が異なる。

5．おわりに

チャルチュアパ遺跡における素面祭壇の使用は、遅くとも先古典期後期に始まり、古典期後期まで使われた。また、先古典期後期では、イサパ遺跡のように何らかの意図を持って素面祭壇が床にはめ込まれた。北側にあった半円形の集石遺構を考慮すると、竜座若しくは北斗七星の観測に用いられたタカリク・アバフ遺跡の石碑のように、天体観測に利用されていた可能性（Popenoe de Hatch, 2002; Schieber de Lavarreda y Orrego Corzo, 2013）、ウフシュテ遺跡のように春秋分点を意識していた可能性（Estrada Belli, 1999; Estrada Belli, et al., 1997）なども検討していきたい。また、E3–2建造物の南側で出土した横になった素面石碑と共に出土した2基の素面祭壇は石碑との組み合わせであった。エル・ポルトン遺跡との類似点がみられ、素面石碑と素面祭壇をその役目が終わった時に、後代の古典期マヤのように構築物の一部として埋納する儀礼であった可能性がある。しかし、チャルチュアパ遺跡では、一旦埋めてしまった素面祭壇と素面石碑を掘り返して、その後、別の素面祭壇を逆位に、同様に土器も逆さにして置かれていた。これは、地下世界に対しての儀礼と考えられる。更に、その後、新しい床面を張った後に穴を掘り、そこに破壊されたジャガー頭部石彫を逆位にして置いている。これも、地下世界を意識した行為と考えられ、地下世界に対する強い意識がみられる。一方、メソアメリカ南東部太平洋側で一般的にみられる素面石碑の前に置く素面祭壇との組み合わせもチャルチュアパ遺跡カサ・ブランカ地区でみられる。チャルチュアパ遺跡で出土した素面祭壇は、メソアメリカ南東部太平洋側で出土した素面祭壇と同じ儀礼に関係する事例と、この遺跡独自の事例があった。

一方、素面祭壇には、自然石を転用したものや石碑の転用もあると考えられる。従来石碑と報告されている事例についても、再考することが必要である。また、不定形の素面祭壇については、遺跡出土のみならず遺跡外での出土事例も考慮する必要がある。しかし、何も人工的に手が加えられた痕跡がない石については、積極的に祭壇と認められる理由がない限りは単なる自然石として考えることもある。素面祭壇については、まだ解明すべき課題は多い。

謝辞：この研究の経費は、科学研究費補助金（課題番号：17K18525、20H05131）の一部が使われました。また、Tomas Barrientos 氏には Universidad del Valle 所蔵の資料使用に関して便宜を図っていただいた。金子明氏にはイグレシア・ビエハ遺跡の考古資料についてご教示いただいた。この紙面を借りて、お礼を申し上げたい。

参考文献

Arroyo, Bárbara

2010 ***Entre Cerros, Cafetales y Urbanismo en el Valle de Guatemala: Proyecto de Rescate Naranjo***. *Publicación especial* 47, Academia de Geografía e Historia de Guatemala, Guatemala.

Bove, Federick J.

1989 ***Formative Settlement Patterns on the Pacific Coast of Guatemala: A Spatial Analysis of Complex Societal Evolution***. *BAR International Series* 493, Oxford.

2011 "The People with No Name: Some Observations about the Plain Stelae of Pacific Guatemala, El Salvador, and Chiapas with Respect to Issues of Ethnicity and Rulership." In ***The Southern Maya in the Late Preclassic: The Rise and Fall of an Early Mesoamerican Civilization***, edited by Michael Love and Jonathan Kaplan, pp. 77–114.

Carnegie Institute of Washington

1929 Large stone against base (late) of E. side of Str. 1A and under the latest inter. Electronic document. PM# 58–34–20/42403. http://id.lib.harvard.edu/images/pea521206/catalog accessed April 25, 2018.

Clark, John and Thomas A Lee

2013 ***Minor Excavations in Lower Izapa.*** *Papers of the New World Archaeological Foundation* 75, Brigham Young University, Provo.

Dutton, Bertha P. and Hulda R. Hobbs

1943 ***Excavations at Tajumulco, Guatemala***. *Monographs of the School of American Research* 9, University of New Mexico Press, Santa Fe.

Estrada Belli, Francisco

1999 ***The Archaeology of Complex Societies in Southeastern Pacific Coastal Guatemala: A Regional GIS Approach***. *BAR International Series* 820, Hadrian Books, Oxford.

Estrada Belli, Francisco, Laura J. Kosakowsky, Ben Thomas, Ann-Eliza Lewis, John Schultz, Marc Wolf y Kim Berry

1997 "La Arqueología de Santa Rosa, 1996." En ***X Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 1996***, editado por J. P. Laporte y H. Escobedo, pp. 194–213.

Ferdon, Edwin N., Jr

1953 ***Tonala, Mexico, an Archaeological Survey.*** *Monographs of the School of American Research* 16, Santa Fe.

Graham, John A.

1979 "Maya, Olmecs, and Izapans at Abaj Takalik." In ***Actes du XLII Congrès International des Américanistes***, edited by Lean-Baptiste Faivre, pp. 179–188.

Graham, J. A., R. F. Heizer, and E. M. Shook

1978 "Abaj Takalik 1976: Exploratory Investigations." *Contributions of the University of California Archaeological Research Faculty* 36, pp. 85–109.

Graham, John A. and J. B. Porter

1989 "A Cycle 6 Initial Series? A Maya Boulder Inscription of the First Millennium B.C. from Abaj Takalik." *Mexicon* 11 (3): 46–49.

Guerra, Jenny and James E. Brady

2009 "A Restudy of Cave 1 at Quen Santo." In ***Exploring Highland Maya Ritual Cave Use: Archaeology & Ethnography in Huehuetenango, Guatemala***, *Association for Mexican Cave Studies Bulletin* 20, edited by James E. Brady, pp. 27–40.

Ichikawa, Akira

2007 ***Informe Final Proyecto de Reparación de Drenaje alrededor de la Estructura-5.*** Departamento de Arqueología, CONCULTURA, San Salvador.

Ichikawa, Akira, Shione Shibata y Masakage Murano

2009 "El Preclásico Tardío en Chalchuapa: Resultados de las investigaciones de la Estructura 5 en el Parque

Arqueológico Casa Blanca.” En ***XXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala***, editado por J. P. Laporte, B. Arroyo y H. Mejía, pp. 455–460.

Ichon, Alain et Rita Grignon

1981 ***El Jocote***. *Archéologie de sauvetage dans la vallée du Río Chixoy* 3, Centre National de la Recherche Scientifique, Paris.

伊藤伸幸

2001a「南メソアメリカ太平洋側斜面の四脚付テーブル状台座形石彫」『名古屋大学文学部研究論集』47(140): 7–26.

2001b「カミナルフユの権力と抗争」『古代文化』53–7: 33–45.

2004 「南メソアメリカ出土石彫に表現される四脚付テーブル状台座の考古学的分析—古代メソアメリカ王権の起源に関わる考古学的研究の一つとして—」『古代文化』56–1: 27–44.

2016 「“様式化したジャガー頭部” 石彫について (1)」『名古屋大学文学部研究論集』62(185): 101–123.

2017 「“様式化したジャガー頭部” 石彫について (2)—メソアメリカ南東部太平洋側における意味を考える—」『名古屋大学文学部研究論集』63(188): 47–72.

Ito, Nobuyuki

2004 ***Informe 2003–2004, la Investigación de las Esculturas en la Región Sur de los Mayas***. Instituto de Antropología e Historia, Guatemala.

2022 “El linaje del trono en Mesoamérica: Desde los olmecas hasta los mayas.” *Perspectivas Latinoamericanas* 18: 61–87.

Ito, Nobuyuki y David Stuart

2019 “Chalchuapa: Capital regional en el occidente de El Salvador.” *Arqueología Mexicana* 155: 82–87.

Ito, Nobuyuki (ed.)

2014 ***Informe Final del Proyecto “Investigación Arqueológica a través de Sondeo Geofísico en el Área de El Trapiche, Chalchuapa” (2012–2014).*** Dirección de Arqueología de la Secretaria de Cultura de la Presidencia, Proyecto Arqueológico de El Salvador, San Salvador.

2021 ***Informe Final del “Proyecto Arqueológico de El Trapiche, Chalchuapa” (Etapa: 2015–2020)***. Ministerio de Cultura de El Salvador, San Salvador.

Kaneko, Akira

2006 “Iglesia Vieja.” En ***Presencia Zoque***, editado por Dolores Aramoni Calderón, Thomas A. Lee Whiting y Miguel Lisbona Guillén, pp. 345–366.

Kaplan, Jonathan H and Federico Paredes Umaña

2019 ***Water, Cacao, and the Early Maya of Chocolá***. University Press of Florida, Gainesville.

Linares Palma, Adriana y Sonia Medrano

2010 “Construcciones Preclásicas cubiertas de agua.” En ***XXIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2009***, editado por B. Arroyo, A. Linares y L. Paiz, pp. 317–333.

Love, Michael W.

2010 “Thinking Outside the Plaza: Varieties of Preclassic Sculpture in Pacific Guatemala and Their Political Significance.” In ***The Place of Stone Monuments: Context, Use, and Meaning in Mesoamerica's Preclassic Tradition***, edited by Julia Guernsey, John E. Clark, and Barbara Arroyo, pp. 149–175.

Lowe, Gareth W., Thomas Lee Jr., and Eduardo Martinez Espinosa

1982 ***Izapa: An Introduction to the Ruins and Monuments***. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 31, New World Archaeological Foundation, Provo.

McDonald, Andrew J.

1983 ***Tzutzuculi: A Middle-Preclassic Site on the Pacific Coast of Chiapas, Mexico***. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 47, Brigham Young University, Provo.

Marroquín, Elizabeth

2005 “El manejo del agua en Tak´alik Ab´aj, Retalhuleu: La evidencia de canales prehispánicos.” En ***XVIII Simposio***

de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2004, editado por J. P. Laporte, B. Arroyo y H. Mejía, pp. 955–967.

Medrano, Sonia

2011a "Excavaciones bajo el agua: Samabaj, Atitlán." En ***XXIV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2010***, editado por B. Arroyo, L. Paiz, A. Linares y A. Arroyave, pp. 159–163.

2011b "Samabaj, un sitio subacuático en el lago de Atitlán." En ***Arqueología Subacuática: Amatitlán Atitlán***, editado por Guillermo Mata Amado y Sonia Medrano, pp. 93–110.

Medrano, Sonia y Roberto Samayoa Asmus

2010 "Samabaj; un sitio subacuático en el lago de Atitlán." En ***XXIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2009***, editado por B. Arroyo, A. Linares y L. Paiz, pp. 335–345.

Navarrete, Carlos

1960 ***Archeological Explorations in the Region of the Frailesca, Chiapas, Mexico.*** *Papers of the New World Archaeological Foundation* 7, Orinda.

1979 ***Las Esculturas de Chaculá, Huehuetenango, Guatemala***. *Cuadernos/ Serie Antropológica* 31, Instituto de Investigaciones Antropológicas, UNAM, México.

Norman, V. Garth

1976 ***Izapa Sculpture***. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 30, Brigham Young University, Provo.

Orrego Corzo, Miguel

1990 ***Reporte 1. Investigaciones Arqueológicas en Abaj Takalik, El Asintal, Retalhuleu 1988***. Proyecto Nacional Abaj Takalik, Ministerio de Cultura y Deportes, Dirección General del Patrimonio Cultural y Natural/IDAEH, Guatemala.

Parsons, Lee Allen

1967 ***Bilbao, Guatemala: An Archaeological Study of the Pacific Coast, Cotzumalhuapa Region*** 1. *Publications in Anthropology*11, Milwaukee Public Museum, Milwaukee.

1969 ***Bilbao, Guatemala: An Archaeological Study of the Pacific Coast, Cotzumalhuapa Region*** 2. *Publications in Anthropology* 12, Milwaukee Public Museum, Milwaukee.

1986 ***The Origins of Maya Art: Monumental Stone Sculpture of Kaminaljuyu, Guatemala, and the Southern Pacific Coast***. *Studies in Pre-Columbian Art & Archaeology* 28, Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.

Popenoe de Hatch, Marion

2002 "Evidencia de un observatorio astronómico en Tak´alik Ab´aj (antes Abaj Takalik)." En ***XV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2001***, editado por J. P. Laporte, H. Escobedo y B. Arroyo, pp. 38–3398.

Sharer, R. J. (ed.)

1978 ***The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador*** 1–3. University of Pennsylvania Press, Philadelphia.

Sharer, Robert J. and David W Sedat

1987 ***Archaeological Investigations in the Northern Maya Highlands, Guatemala: Interaction and the Development of Maya Civilization***. *University Museum Monograph* 59, University of Pennsylvania, Philadelphia.

Sharer, Robert J. and Loa P. Traxler

2016 "The Origins of Maya State: Problems and Prospects." In ***The Origins of Maya States***, edited by Loa P. Traxler and Robert J. Sharer, pp. 1–31.

Schieber de Lavarreda, Christa

1998 "Exploraciones hacia el oeste del parque arqueológico Abaj Takalik: El escondite." En ***XI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 1997***, editado por J. P. Laporte y H. Escobedo, pp. 339–357.

Schieber de Lavarreda, Christa y Miguel Orrego Corzo

2001 ***Los Senderos Milenarios de Abaj Takalik.*** Ministerio de Cultura y Deportes, Dirección General del Patrimonio Cultural y Natural y Proyecto Nacional Abaj Takalik, Guatemala.

2010 “Preclassic Olmec and Maya Monuments and Architecture at Takalik Abaj.” In ***The Place of Stone Monuments: Context, Use, and Meaning in Mesoamerica's Preclassic Tradition***, edited by Julia Guernsey, John E. Clark, and Barbara Arroyo, pp. 177–205.

2013 “Celebraciones del solsticio de invierno en Tak'alik Ab'aj: el ritual en el Altar 46 “Piecitos”.” En ***XXVI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala***, 2012, editado por B. Arroyo y L. Méndez Salinas, pp. 919–930.

Shook, Edwin M.

s.f. Archivo Edwin M. Shook, ficha de sitio No. 5701, 5707, 5709, 5711, 5713. Centro Documentación Sociocultural, Centro de Investigaciones Arqueológicas y Antropológicas, Universidad del Valle de Guatemala, Guatemala.

Smith, A. Ledyard

1955 ***Archaeological Reconnaissance in Central Guatemala***. *Publication* 608, Carnegie Institution of Washington, Washington.

Stirling, Matthew W.

1939 “Discovering the New World's Oldest Dated Work of Man.” *The National Geographic Magazine* 76: 183–218.

1940 ***An Initial Series from Tres Zapotes, Vera Cruz, Mexico***. *National Geographic Society, Technical Papers, Mexican Archaeology Series* 1. Washington.

Termer, Franz

1973 ***Palo Gordo: Ein Beitrag zur Archäologie des Pazifischen Guatemala***. Renner, München.

Wolley Schwarz, Claudia Blanca Verónica

2010 ***Informe Final, la Escultura Prehispánica de la Costa Sur Guatemalteca: Un Estudio Previo a su Inminente Pérdida en el Siglo XXI***. Universidad de San Carlos de Guatemala, Guatemala.

キーワード：メソアメリカ、南東部太平洋側、チャルチュアパ、先古典期

Abstract

Altar liso en la Costa Sur de Mesoamérica

Nobuyuki Ito

En la Costa Sur de Mesoamérica se encuentra cantidad de monumentos lisos, como estela lisa, altar liso, roca lisa entre otros. En Chalchuapa, hay el complejo de estela-altar, varias esculturas monumentales y monumentos lisos. Entre los años de 2012 y 2019, se realizaron las investigaciones arqueológicas en el área de El Trapiche. Se encontraron un altar independiente y una estela lisa con dos altares lisos.

El altar liso se utilizaba del período Preclásico Medio hasta el Posclásico en esta región. Morfológicamente la mayoría de los altares lisos tiene forma discoidal y se ocupa segundo lugar la amorfa. Los altares lisos discoidal y cuadrado se empezaron a producir en el período Preclásico Tardío y duraba entre los períodos Clásico Tardío y Posclásico. El óvalo y amorfo se usaba solo del Preclásico Medio al Preclásico Tardío. En general se localiza cerca de la estructura y normalmente al frente de la fachada o escalera de estructura. Está en la mayoría acompañado a la estela, especialmente a la lisa, mientras, en unos casos, a la estela con bajorrelieve y, a veces glifos. También se encontraron cerca del rio, manantial, por lo cual indica que se hubiera utilizado para el ritual relacionado con el agua.

Sin embargo, hay unos altares lisos sin ninguna dependencia de estructura ni escultura monumental. En Izapa con alguna intención se han enterrado unos altares en la estructura. En Chalchuapa, se encontró un altar liso al sur de la Estructura E3–1 en el eje arquitectónico de la misma, sobe el cual se encontró la escultura de Cabeza Jaguar Estilizado posterior al mismo altar liso.

En Chalchuapa inició a utilizar el altar liso durante el periodo Preclásico Tardío hasta el Clásico Tardío. También es posible que se colocó un altar liso, como independiente, al sur de la Estructura E3–1 sobre el eje arquitectónico de la misma, con una intención, como en Izapa. Sin embargo, se encuentra un complejo escultórico “Estela-Altar”, como la mayoría de los altares lisos en la región de la Costa Sur de Mesoamérica.

Keywords: Mesoamérica, Costa Sur, Chalchuapa, Preclásico

写真１　メソアメリカ南東部太平洋側で出土した素面祭壇

a. チャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区1–5トレンチ第１西拡張区出土祭壇、b. オリンポ遺跡出土祭壇、c. タカリク・アバフ遺跡29号祭壇・56号石碑、d. チョコラ遺跡７号記念物、e. 同遺跡10号記念物、f. ビルバオ遺跡記念物広場出土素面祭壇（図10b 参照）、g. 同遺跡43号記念物

写真２　チャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区出土素面祭壇

a. 8–1 トレンチ第 1 西拡張区出土東祭壇、b. 同西祭壇上面、
c. 同祭壇下面、d. 東祭壇と素面石碑、e. 西祭壇と素面石碑

写真３　タカリク・アバフ遺跡及びモンテ・アルト遺跡出土祭壇

a. タフムルコ遺跡出土円筒形祭壇、b. タカリク・アバフ遺跡６号祭壇と18号石碑、
c. モンテ・アルト遺跡出土円形祭壇

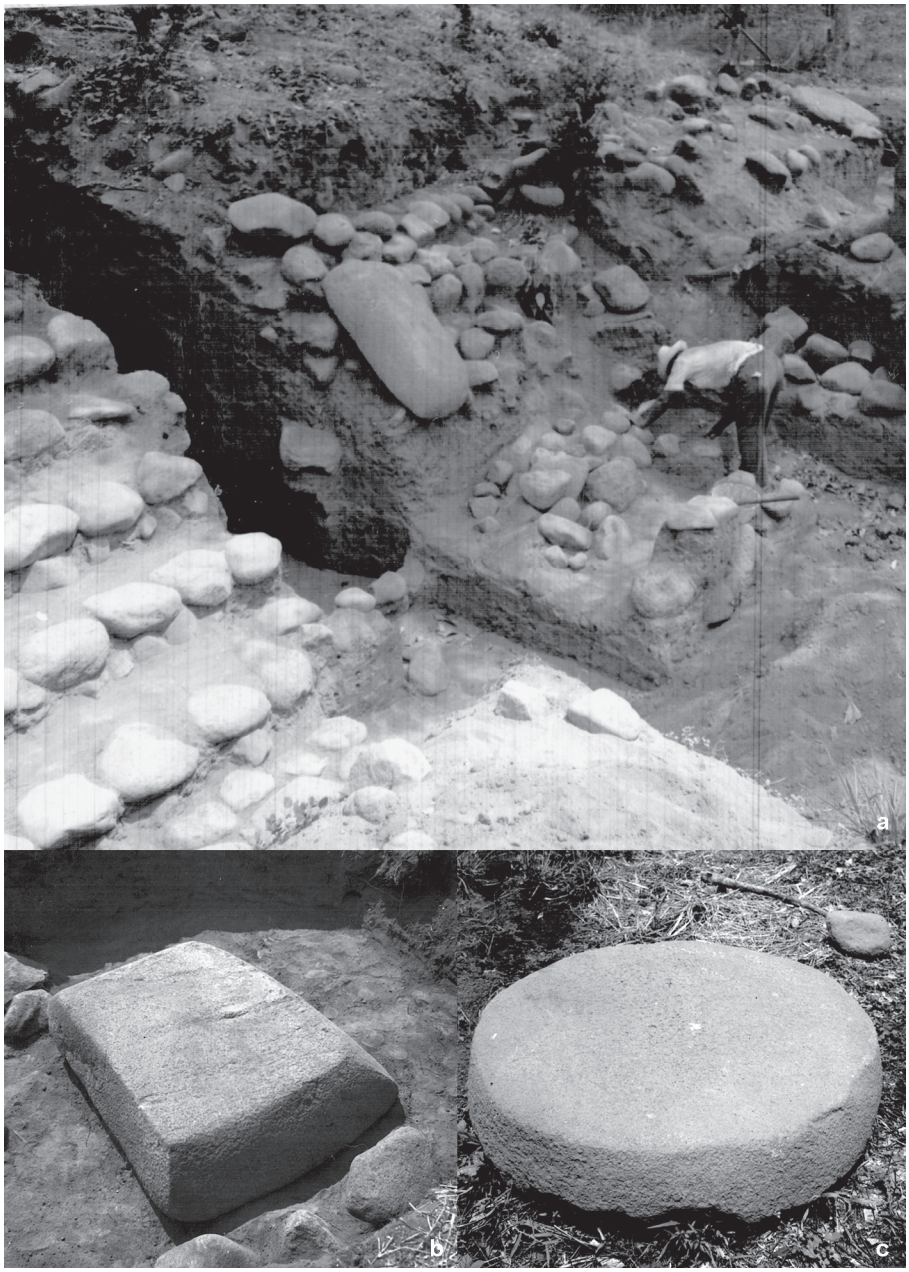


写真４　モンテ・アルト遺跡出土祭壇

a. 1，3 号素面祭壇出土状況（1 号：右奥、3 号：中央）、b. 2 号素面祭壇、c. 1 号素面祭壇（Shook, s.f.: foto No. 5707, 5711, 5716）